# も　く　じ

## １．活動報告書


| No. | 活動名 | 団体名 | 地域 | | ﾍﾟｰｼﾞ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ぼくたちの道しるべ～違っていてもいいんだよ～自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て【家庭療育を進めるプロジェクト】 | 発達障害親の会　＊ＰＥＡＣＣＨ＊ | 広島県 | 広島市 | 1 |
| 2 | 安芸太田町の自然フィールドを使った体験学習 | 一般社団法人<br>ソーシャルデザインマネジメント | 広島県 | 山県郡 | 3 |
| 3 | パイオニアキャンプ２０１８夏 | 広島アウトドア研究会 | 広島県 | 広島市 | 5 |
| 4 | 鹿ケ谷ふれあい広場の整備と活用 | NPO法人<br>里山環境保全みどり会 | 広島県 | 広島市 | 7 |
| 5 | 「地域全体で子育て・親育ち応援!!」<br>～地元を愛し、お互いに元気になろう～ | 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」 | 広島県 | 安芸郡 | 9 |
| 6 | 奥安芸の鉄物語　紙芝居&体験活動 | 奥安芸の鉄物語たたらの楽校実行委員会 | 広島県 | 山県郡 | 11 |
| 7 | 若者と高齢者が共生する街づくり活動 | 鞆の浦の共生を実行する会 | 広島県 | 福山市 | 13 |
| 8 | お母さん、見守って！私たちでできるから！こどもたちで創るこども食堂 | しもＪＯＹ | 広島県 | 広島市 | 15 |
| 9 | 地域の里山を舞台とした、教育研修イベント | 美鈴恵みの森づくりボランティア | 広島県 | 広島市 | 17 |
| 10 | ～未来をつくる子ども達に贈る～自然の中で、共に楽しみ学ぶ！<br>ネイチャーファシリテーター養成講座 | NPO法人<br>三段峡-太田川流域研究会 | 広島県 | 山県郡 | 19 |
| 11 | 環境教育研究部会「もりメイトキッズ」 | NPO法人<br>もりメイト倶楽部Hiroshima | 広島県 | 広島市 | 21 |
| 12 | 瀬戸内・地魚学ぶんジャー<br>～さかなを学んで学生ボランティアリーダー育成～ | 一般社団法人　ふるさと楽舎 | 広島県 | 広島市 | 23 |
| 13 | 未来をつくる地域リーダー育成プロジェクト | NPO法人<br>昭和地区まちづくり協議会 | 広島県 | 呉市 | 25 |
| 14 | より好い地域社会を創る次代の理工系人材の育成実践 | 一般社団法人　RoFReC | 広島県 | 三原市 | 27 |
| 15 | 循環型の地域発信 | NPO法人<br>フリースクール木のねっこ | 広島県 | 広島市 | 29 |
| 16 | ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成 | めんがめ倶楽部 | 広島県 | 三次市 | 31 |
| 17 | 子どもから高齢者まで誰もが来られる地域の居場所づくり | 笑顔つながり隊 | 広島県 | 広島市 | 33 |
| 18 | 被災の経験と教訓を通じて学ぶ 「若者の地域力スキル」 育成講座 | 若者活動サポートセンターあおぞら | 広島県 | 広島市 | 35 |
| 19 | 日本語教室開催を通じた異文化交流と日常生活サポート | 府中町日本語教室ボランティアの会 | 広島県 | 安芸郡 | 37 |
| 20 | 教えて！赤ちゃん先生　～わたしもあなたも大事な命～ | ママの働き方応援隊 広島東校 | 広島県 | 安芸郡 | 39 |
| 21 | まちづくりイベント　―みんなで盛り上が（AGA）ろう！－ | AGAin&原小AGAin | 広島県 | 呉市 | 41 |
| 22 | 「くまげの美術室」設置事業 | 「くまげの美術室」実行委員会 | 山口県 | 周南市 | 43 |
| 23 | 「温故知新プロジェクト」<br>～若い力で私達の街を国際学園都市へ発展させよう！～ | NPO法人<br>ワン・フォー・オール | 山口県 | 宇部市 | 45 |
| 24 | ～謎をといてお宝ゲット！～　お天気×ぼうさい　宝さがしゲーム | 空みずきの会 | 山口県 | 山口市 | 47 |
| 25 | いきりこ | 玖珂町いきりこ保存会 | 山口県 | 岩国市 | 49 |
| 26 | ぼくらはまちのプロデューサー | machi-mori | 山口県 | 周南市 | 51 |
| 27 | 朗読劇とワークショップで交流しよう | 下関リーディングの会 | 山口県 | 下関市 | 53 |
| 28 | 小学生の竹林体験学習サポート活動 | 竹林ボランティア俵山 | 山口県 | 長門市 | 55 |
| 29 | 神楽による青少年健全育成 | 創作風鎮神楽会 | 山口県 | 防府市 | 57 |
| 30 | 療育を通して地域の障害児福祉を耕していく一つの試み<br>（重症心身障害児を対象とした宿泊型の動作法訓練会の実施） | 福山動作法訓練会 | 広島県 | 福山市 | 59 |

２．贈呈式　61

３．応募＆採択に関するデータ　62

活動名：No.1 ぼくたちの道しるべ

# ～違っていてもいいんだよ～

自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て
【家庭療育を進めるプロジェクト】

8/23！親子活動で奇跡の大逆転を観戦

**団体名**　発達障害親の会＊ＰＥＡＣＣＨ＊
**活動地域**　広島県内（主に広島市、呉市）
**代表者名**　唐内　愛（とうない　めぐみ）
**支援金額**　20 万円

## ● 活動概要

自閉症スペクトラムの子どもたち、またその家族・保護者の支援を目的とした活動を年間を通して定期開催した。（①親子活動、②保護者交流会、③ペアレント・トレーニング）

これらの活動により、保護者は、自閉症スペクトラムの子どもたちの抱える困難さの背景を考え、どの様に支援したら良いかを学んだ。また、子どもとの関わり方や生活上の様々な工夫を学び、それらの情報を共有する場を提供した。

全ての活動において、子どもの得意な事や特性を活かし、将来を見据えた支援をする視点を保護者が学び実践し、子どもたちの自己肯定感を育てることに力を入れた。最終的には、子どもたちが、定型発達のお子さんとの違いを優劣ではないことと理解し、「工夫すれば自分はできるんだ」とポジティブに捉えて成長していく～道しるべになるような支援～を共有していくことを目的とし、活動した。

### ① 親子活動　【目的】子ども達が地域に出て、豊かな成長に必要な体験・学びを得る時間を仲間と共有する

- 音楽療法５回、買い物活動３回、造形活動１回、カープ観戦１回（年度内計 10 回）
- 参加者数：（３月開催予定分含め）延べ 40×10＝400 人（内子ども 20×10＝200 人）

音楽療法の様子

造形活動の様子

### ② 保護者交流会　【目的】子供の障害特性の理解と支援法の学習、保護者の思いや悩みを共有する保護者支援

- 茶話会５回、研修や勉強会５回、納涼会やランチ会２回、（年度内計 12 回）延べ参加者 512 名

### ③ ペアレント・トレーニング

【目的】親が子どもへの適切な接し方を学び、子どもへの考え方や行動を変えることで、子供が感じている困難さを理解し、課題の軽減につなげ、親子が良好な関係を育むこと。

- 10 月～11 月間の週１、２回実施（全 10 回）延べ参加者数 180 名

12月
勉強会
の様子

ペアレント・トレーニング受講の様子

## ● 実施に伴う効果

- 親子活動においては、保護者から「行く日は子供が進んで準備をする」、「活動日をカレンダーで確認して楽しみにしている」など嬉しい言葉を頂いている。目指すところの「わかる活動＝楽しい！」になっていると感じる。
- 保護者交流会の茶話会では、保護者それぞれの悩みや困っていることについて、毎回時間いっぱい話し合い、意見や情報の交換を行い、大変有意義な時間となっている。
- 勉強会におけるアンケート集計では、用紙回収率 92%中、回答の大半において「内容が大変良かった」、「とてもよく理解できた」とあり、非常にご好評を頂いた。先輩保護者の成功体験を聞く機会が一般に少ない中で、良い企画として評価して頂けたのではと感じる。
- ペアレント・トレーニングでは、受講者の検討課題は大幅に改善し、親子関係が良くなる様子が見てとれた。聴講者も共に学び、行動の観察や記録をとる意義、子供との接し方を学ぶことが出来た。
- 講演会やペアレント・トレーニングでは、地域の支援者(行政含む）関係者にも出席して頂いた。
- 貴団体ＨＰに掲載して頂いたおかげで、新聞記者の方が交流会に取材に来られ、勉強会の案内を紙面に掲載して頂いた。また来年度の世界自閉症啓発デーに際し、協力依頼を受けている。

## ● 苦労した点

今年度は夏の豪雨災害の影響で、予定会場の使用が何度か難しくなり、様々な調整が必要になった。またスタッフには住居が被災した者もあり、大変な状況下で会の運営業務を進め、その点は苦労した。

## ● 今後の課題・発展の方向性

３ 年間連続でマツダ財団様にご支援を頂いたおかげで、これまで難しかった規模の勉強会や継続的なペアレント・トレーニングを開催することが出来た。今後も今まで同様に「保護者だからこそ出来る、地に足のついた活動」を進めていきたいと考える。また、会の計画や運営をスタッフ内に留まらず、広く会員と共有することで、息の長い地域活動にしていきたい。

## ● 活動を終えての感想

弊会は 2012 年に保護者４名で設立した。当初の活動は今よりも小規模で、全てが手探り・試行錯誤の繰り返しだったが、やはり会のモットーとするところは、活動名としている「ちがっていてもいいんだよ」であった。年数が経ち、自分達だけでなく広く地域貢献としての活動にするために、どうしたら良いのか？、という時期にマツダ財団様よりご支援を頂き、この３年で多くのことを実践することができ、非常に有難かった。また何より、私たちの地道な活動に注目して頂いたことが大変嬉しく、スタッフのモチベーション向上はもとより、参加会員全員で、より質の良い活動を目指すことが出来たと感じている。マツダ財団様、３年間大変お世話になりました。ありがとうございました！

| 活 動 名 | No.2 | 団 体 名 | 一般社団法人<br>ソーシャルデザインマネジメント |
|---|---|---|---|
| **安芸太田町の自然フィールドを使った体験学習** | | 地　　域 | 広島県山県郡安芸太田町 |
| | | 代 表 者 | 中本　邦治 |
| | | 支援金額 | 15 万円 |

活動概要

日時：5 月 16 日　　場所：安芸太田町津浪
目的：田植え体験　　内容：田植え　　参加者：10 名

日時：10 月 23 日　　場所：安芸太田町津浪
目的：さつまいも掘り　　内容：さつまいも掘り　　参加者：8 名

日時：12 月 16 日　　場所：安芸太田町津浪
目的：蕎麦作りをしよう　　内容：蕎麦作り　　参加者：14 名

日時：2 月 16 日　　場所：安芸太田町那須
目的：木で遊ぼう　　内容：薪割り・焚き火　　参加者：15 名

田植えの様子

さつまいも堀りの様子

蕎麦打ちの様子

木の遊びの様子

◆実施に伴う効果

・広島市内からの参加者に大変喜んで頂いた。広島市内、安芸太田町の人達にマツダ財団の活動を紹介できた。

・12 月については、被災地域の子ども達対象で実施した。参加者に元気を与えることが出来た。

・安芸太田町津浪地区の関係者、地域の人との交流で、関係人口が増え、お年寄り等に大変感謝された。

・安芸太田町の津浪地区の活性化に繋がって、来年以降も活動を継続する形が出来た。

・安芸太田町内の団体とのコラボが出来たので、来年以降の活動の計画の目処がたった。

◆苦労した点

7 月に起きた災害でにより予定していた 8 月以降の事業が実施できなかった。やっと、12 月に蕎麦体験が出来た。

・予算の関係で、当初の予定から変更があったが、4 回の活動がしっかりできた。

・SNS を中心に広報活動を行ったが、なかなか参加者を募ることができずに、直接、知り合いのスポーツ団体にお願いすることが多かった。

・ターゲット(貧困家庭・子ども食堂参加者)を決めて、募集、お願いをするべきだったと思う。

・保護者同伴の活動をしなかったために、スタッフの人数が少ない場合があった。

◆今後の課題・発展の方向性

・体験活動は、現代の子ども達には非常に大切な活動なので、継続して実施していきたい。

・今後は貧困家庭を対象に、子ども食堂の関係者と話を進めて、定期的な活動を展開していきたい。

・貧困家庭の農業体験を実施するために、広島市の行政担当と検討段階に入った。

・一般社団法人ソーシャルデザインマネジメンの理事の仕事は、今年度で辞めるので、今後は、ソーシャルビジネスマネジメント合同会社として、この活動を実施することにしている。

・ソーシャルビジネスマネジメント合同会社として、安芸太田町の柴木の耕作放棄地の再利用をすることになり、この地域で、農業関係、体験活動を今後は計画的に実施することが決定している。

◆活動を終えての感想・意見等

・支援して頂いた事で、当団体の認知度も上がりました。また、地域の皆様との関係も構築できたと考えています。本当にありがとうございました。

・2019 年度の応募はエントリーしませんでしたが、2020 年は、貧困家庭へのアプローチをしたいと思っていますので、エントリーさせて頂けたらと考えています。

| 活 動 名 | No.3 | 団 体 名 | 広島アウトドア研究会 |
|---|---|---|---|
| **パイオニアキャンプ２０１８夏** | | 地　　域 | 広島市西区 |
| | | 代 表 者 | 垰田　修平 |
| | | 支援金額 | 35 万円 |

活動概要

教員をはじめとした様々な職種の社会人スタッフ，将来教職を志望している学生を中心とした大学生スタッフ，キャンプの OG･OB で構成される高校生スタッフと，いずれもボランティアで子どもたちの健全育成を願うスタッフの熱意によって支えられ継続できているキャンプで、以下のような特徴と活動プログラムをもっている。

・特徴　：　長期自然生活型，異年齢集団による生活体験，電気，ガスのない不便な環境での生活
命をいただくことが実感できる食事プログラム（形あるものを食す），自分を見つめるソロ体験

・主な活動プログラム　：　野外炊飯，野外技術の習得，キャンプファイヤー，ヤマメのつかみ取り，
天体観測，　ドラム缶風呂，ソロ体験，オリジナル T シャツづくり，クラフト　等

実施時期　2018 年 8 月 12 日（日）　～　18 日（土）　6 泊 7 日
場所　安芸太田町　杉の泊ホビーフィールド
参加人員　１２４　名
参加者　小学生　50 名　　中学生　24 名
スタッフ　高校生　13 名　　大学生　15 名　　社会人　22 名
協賛団体　マツダ財団，フレスタ，肉のはなおか，コカコーラ，大田川上流漁協，アンディークス
理研産業，和泉木材，山電，ビーテック，安芸大田病院，加計警察署，戸河内消防署
杉の泊ホビーフィールド
後援　広島市教育委員会

バーベキューの準備完了

テントは自分で建てるよ

キャンプファイヤーで盛り上がった

キャンプ打ち上げだ！

◆実施に伴う効果

・過疎化が進む地域のお年寄りに「たくさんの子どもたちを連れて来てくれてありがとう。おいしい山の空気をしっかり味わわせてやってください」と感謝された。

◆苦労した点

・一週間続けて参加できるスタッフ（大学生リーダー）の確保

・今年は利用施設（杉の泊ホビーフィールド）から水のトラブルが伝えられ、５００Lタンクやエンジンポンプを用意し，採水場を探すなど水の確保に奔走した。結果的には施設のポンプが復旧し例年通りの水量が供給されたが，準備は大変であった。本キャンプの特徴や実施プログラムから，他の会場，施設での実施は不可能であると思われる。

◆今後の課題・発展の方向性

・世の中がますます物質的に豊かになり ICT 化など，バーチャルの世界が広がっていく中で，本キャンプのような実体験を伴った学習の場は子ども達にとって貴重な機会となってくるものと思われる。

・現代の子ども達の実態を考慮し，怪我の未然防止，安全対策に気を配りながら「冒険」的な体験をさせていきたい。マッチを擦ったこともない子ども達が小枝を集めたり薪を割ったりして火を起こす体験は子どもの心に大きな影響を与え，自信を持たせることに繋がっていくものと思われる。

・18 年続けてきたキャンプを今後も継続していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

・18 年続けてきた本キャンプにご理解とご支援をいただいたマツダ財団に感謝申し上げます。おかげさまで本年も無事にキャンプを終えることができ，たくさんの子ども達の笑顔を見ることができました。財団のご支援のおかげで揃えることができたピザ釜は今後のキャンプメニューの充実に繋がっていくものと思われます。

また，スタッフのユニホームであるポロシャツをそろえることもでき，今後活動を継続していく上で大いに活用させていただきます。当初，テント用のグランドシートを購入させていただく予定でしたが，本年の猛暑対策として，これまで各班のオーニング用に使用していたブルーシートを遮光・遮熱シートへの更新のための費用の一部に当てさせていただきました。お陰様で熱中症の子どもを出すことなく，一週間の活動を終えることができました。

今後も，子ども達の笑顔を見るために，バーチャルではなく実体験を与えるためにキャンプを継続していく所存です。

| 活 動 名 | No.4 | 団 体 名 | ＮＰＯ法人里山環境保全みどり会 |
|---|---|---|---|
| **鹿ケ谷ふれあい広場の整備と活用** | | 地　　域 | 広島市安佐南区山本町 |
| | | 代 表 者 | 理事長　西久保克臣 |
| | | 支援金額 | ３０万円 |

活動概要

鹿ケ谷ふれあい広場は、近隣の方だけでなく、子供から高齢者の方まで、多くの方に愛され、自然体験学習や環境保全活動を通じてふるさとを愛する心を養ってただくために、今年度も 1.花木の栽培（継続し、延べ 240 人）、2.家畜の飼育（毎日、850 人）、3.農園での山菜・野菜作り（継続して、150 人）、4.キノコの栽培（継続して、140 人）、5.里山の環境保全、雑木、雑草の除去（継続して、160 人）、標識案内板の製作、ベンチやテーブルの製作（170 人）、6.川の草刈り、清掃作業（13 回、イベント１回）、7.炭焼き（4/5、5/8、9/14、54 人）、8.自然木による工作（継続して、80 人）、ピザ焼き（４回、130 人）、パン作り体験（12/16、50 人）、バーベキュー（3 回、80 人）、そうめん流し（8/11、30 人）、もちつき（12/23、50 人）のイベント等の当初の活動目標として掲げたものは実施できた。７月６日には土石流災害に合い、キノコ栽培園やピザ窯の設備は跡形もなく、流失したが、会員や地元の方だけでなく、幼稚園や学校の生徒、先生、父兄、そしてボランティア団体のご協力で、なんと２ヶ月後の８月末には、完全に復旧した。炭焼窯の屋根や炊事棟の建設、ピザ釜と２口釜戸の製作、キノコ栽培園の復活など、猛暑の中で、休みなしでの活動で超短期間に土砂災害は写真でしか確認できないほどまでに傷跡は完全に消えた。復旧に当たっては流入した大きな石の撤去は、３本の鉄柱を建てチェーンブロックで釣り上げ移動したが、１ｍ動かすのに２時間を要した。このように重機でなく、人力ですべて行い、機械のなかった時代を思い起こさせる作業であった。復旧作業だけでなく当初予定していた活動も支障なく実施したみなさんの熱意に感謝している。真夏の復旧作業中にカブトムシ採り体験や川の自然度調査などを行い、子どもたちも有意義な夏休みを送ることができたと思う。春の「山菜まつり」は予定通りに行ったが秋の最大のイベントでもある「もみじまつり」は、被災したあとでの１１月で、開催を危ぶむ声もあったが予定通り盛大に開催できた。傷んでいたステージの床も張り替えて、手作りのシンボルマークとマスコットキャラクタを描いた幟旗を掲げ楽器演奏など行い、売店では豚汁や石焼いも、ピザ焼きなどを販売し、500 人もの大勢のかたに鹿ケ谷ふれあい広場の秋を満喫していただいた。

親子で葉っぱアート

広島市立春日野小学校４年生の総合学習

ペットボトルで仕掛けを作って木にぶらさげる。
カブトムシ採り体験会

土砂災害で流失した炊事棟の再建で棒に滑車を
つけて、柱を引っ張り上げているところ

◆実施に伴う効果

広島県や広島市の職員が復活した災害現場をご覧になり、人力による作業に驚かれたが、多くの方のお力添えに励まされ、感謝の気持ちでいっぱいであるが、ふるさとを想う気持ちが支えになった。復活は多くの人が感動した。復活した鹿ケ谷ふれあい広場は子どもたちからも愛される憩いの場となっている。自然体験学習や環境保全活動だけでなく、7月6日の土砂災害の発生個所を見学できる遊歩道を造り、災害の恐ろしさを学び、災害の恐れのある時には一刻も早く非難する大切さを学べる場所にもなった。登山道となる市道脇に掲示板を設置して、災害直後と復旧後の写真を掲示しているが、ここにご来場の方は必ず足を止めてご覧になっている。嘉永3年に発生した土砂災害時に流失し、地下 4m 下の土砂に埋まっていた大きな木の根を掘り出して広場に展示していたが、今回の災害で再び流失し、土砂に埋まっていたものを掘り出し、再展示しているが、これも土石流災害の恐ろしさを知っていただく教材として活用している。こうして、鹿ケ谷ふれあい広場を見学しながら学んでいただくが、斜面が多く、1年もすると杭が腐って、階段が破損していたが、当初の計画通り、マツダ財団からご支援いただいた擬木の杭を使用したことにより、登山道や遊歩道の階段は見違えるように丈夫できれいになり歩きやすくなった。また、ステージや観客席のあるステージ広場はこれまで階段を上り下りしなければならない不便さがあったが、新しくスロープの道を作って、車いすやキャタピラー運搬機での通行を可能にした。また、各種体験会を催す広場の排水設備がなくて、雨が降るたびに土砂が流失していたが、U 字溝を埋め、グレーチングで蓋をしたので排水もよくなり、通行も段差がなくなり、歩きやすくなった。

◆苦労した点

・災害時の復旧作業は多くの方のご協力で、驚異的な原状回復を図ることができた。しかし、官公庁支援の重機による恒久対策は行われず、人力のみの復旧のため大変な苦労であった。この先再発する可能性は十分あり不安が残る。

・日常の環境保全活動は、会員の高齢化により、作業は計画通りに進められず、人集めに苦労した。登山や街巡りのガイド、雑木や雑草の除去、学校関係の体験学習の講師派遣などは、人材不足に悩まされた。

・日頃の活動の成果を見ていただくために春の「山菜まつり」秋の「もみじまつり」を開催しているが、活動拠点が不便なところなので、ステージでの出演や出店の交渉がいつも難航している。

・活動拠点に頻繁にイノシシが出没して荒らすので、カブトムシの育っている山の環境を破壊され、山菜・野菜畑が掘り返されて、大きな被害を受けている。小学校の芋掘り体験学習もできない年度には購入して振舞うこともある。

◆今後の課題・発展の方向性

活動拠点は山の中腹で不便なところにあるにもかかわらず、春の「山菜まつり」秋の「もみじまつり」は 500 人以上のご来場があり、地域に密着し、知名度のある地域貢献度の高い団体であるが、高齢化が進み、若年層の参加が不可欠である。自然木での工作やかずら細工がしたい。チェンソーや刈払機の操作が習いたい。炭焼きをしたい。花木を育てたい。野菜作りをしたい。と、来場された方は言われるが、会員登録はしても日常的に参加される方は少ない。まだまだ魅力が欠けていると思われる。

里山環境保全みどり会は 2007 年に発足したが、その当時は、周辺の山々を駆け巡り、広い範囲の整備を実施して来たが、最近では活動拠点の鹿ケ谷ふれあい広場周辺の環境保全活動をするだけで精一杯である。よって、せっかく整備した登山道や遊歩道が荒れて、通行も困難となっている場所もあるが気にはなってもできないのが現状である。

◆活動を終えての感想・意見等

山菜まつり、もみじまつり、シイタケ駒打ち体験会、カブトムシ採り体験会、武田山の日登山会、川のいきもの観察会、炭焼き体験会、さつま芋の植付け、芋掘り体験会などは、10 年以上も継続して実施している。そして、今年度は7月6日の大きな土石流災害で、壊滅的な被害がでたが、その7月にカブトムシ採り体験会を開催するなど、素晴らしい活動ができた。登山道階段の擬木の杭打ちや排水溝設置で心配なく活動ができ、広島市立山本小学校と広島市立春日野小学校の児童の総合学習も安心安全な憩いの場所を利用できることに感謝されている。

今年度は鹿ケ谷ふれあい広場周辺の樹木の名札を更新及び新設した。これまでは板にマジックで簡単に書いたものをぶらさげていたが、今回は、板に下地塗装をし、パソコンで樹木名を出力して、板にカーボン紙で写して、ペンキで書いて、クリアースプレーを吹き付けたもので 54 枚を取り付けた。鹿ケ谷ふれあい広場の案内冊子の樹木解説を見ながら散策できるようにし、自画自賛している。

NPO 法人里山環境保全みどり会の活動に参加すると広島市の「高齢者いきいき活動ポイント」や「ひろしま森づくりコミュニティネットの森づくりポイント」を差し上げますと宣伝しているが、その効果がなく、一般参加者が増えないのは残念なことである。

| 活 動 名 | No.5 | 団 体 名 | 家庭教育支援チーム「くすのき」 |
|---|---|---|---|
| **「地域全体で子育て･親育ち応援!!!」<br>～地元を愛し、お互いに元気になろう～** | | 地　　域 | 広島県安芸郡府中町 |
| | | 代 表 者 | 米田　珠美 |
| | | 支援金額 | 24 万円 |

**活動概要**

**①依頼による「親プロ」**　前年度通り継続。(町内の幼保小中高校など)44 回　参加者合計 1,030 名

**②府中南小学校における「しゃべり場」**　前年度通り継続。(月 1 回程度) 9 回　参加者合計 111 名

**③新規及び拡大事業**　参加者合計 287 名

・南交流センター「育児相談」(月 1 回)、北交流センター「手芸としゃべり場」(不定期)

**④ファシリテーター養成講座・ステップアップ研修会**　場所：くすのきプラザ

・養成講座　日時：6 月 29 日、9 月 13 日　参加者合計 4 名

・講演会：乳幼児の心と体　日時：11 月 10 日 14:00～　参加者合計 20 名

**⑤不登校・引きこもり家庭への支援**

・町内の中学校との連絡会議　(M 中：6 月 21 日、F 中：7 月 3 日)

出席者：校長、教頭、SSW、SC、適応指導教室・不登校担当教員、養護教諭、学校教育課職員、社会教育課職員、家庭教育支援チーム「くすのき」コーディネーター

・カフェくすのき　H30.4 月～H31.3 月(月 1 回程度)　場所：青少年文化センター

開催日時：4/14、6/9、9/29、10/20、11/25、2/3、3/17　参加者合計 84 名

・クッキング＆ランチパーティー　12 月 22 日　場所：青少年文化センター　参加者合計 15 名

・夏休みチャレンジ(地域未来塾事業)　学習支援　町内小中学校 14 回　参加者合計 270 名

**⑥コーディネーターの 2 級心理カウンセラー資格取得**(日本プロカウンセリング協会)　取得者 4 名

交流センター「手芸としゃべり場」

夏休みチャレンジ「金融教育」

カフェくすのき

地域交流会(中学校での「親プロ」)

◆実施に伴う効果

不登校支援の『カフェくすのき』に参加された保護者どうしが知り合いになられ、連絡をとられるようになり、子供どうしが遊ぶようになったと学校から喜びの連絡があった。今年度は、町内 2 つの中学校と連絡会を持つことができ、情報を共有することもできた。スクールソーシャルワーカーや養護教諭が『カフェくすのき』に来られ様子を知ることで、保護者にも紹介して下さるようになった。不登校でなくなったわけではないが、欠席日数が減った生徒が増えてきたと報告があった。手芸をセットで取り入れていることが、おしゃべりのきっかけとなっている。継続して参加して下さる方も増え、保護者の表情も明るくなってきている。昨年より更に輪が広がっていると感じている。

今年度は、クリスマス前に親子で作って食べるランチパーティーを企画した。メニューは、お好み焼き、おにぎり、チーズフォンデュ、チョコフォンデュ、ホップコーンなど、子供でも簡単に作れるものにした。子供の参加も多く、会話も弾んで楽しかったようだった。子供連れでなかった保護者からは、「次回は子供を連れて来たい」との声も聞かれた。

2 つの中学校で行われた地域交流会では、保護者、教員、町内会長、民生児童委員、家庭教育支援チーム「くすのき」のファシリテーターが同じテーブルにつくことで、地域の人も学校の様子がわかり、保護者も地域の人と知り合うことができた。地域清掃やお祭りなどへの参加者が少ないという町内会の悩みに対して、中学校に地域の行事を知らせることで、中学校からも参加を呼び掛けてもらえることになつた。また、部活動などの時間を調整してくださった。実際に、地域交流会後にはたくさんの中学生が地域清掃などに参加していた。

◆苦労した点

不登校・引きこもり家庭への支援は、個人情報保護の壁などもあり、届けたい家庭へ情報の提供が難しい面がある。教育委員会の学校支援課や心の相談室、小中学校へチラシの配布をお願いしたり、公共施設にチラシを置いていただいたり、知り合いを頼って情報を届けてもらったりしている。続けることで周知されてきて、今年度は町外からも問い合わせがあった。年度初めは順調に開催できていた 『カフェくすのき』だが、7 月に西日本豪雨災害があり、会場にしていた青少年文化センターが被災した。町内の榎川が氾濫し、避難所生活をされる方がいらしたり、土砂の撤去などで、2 カ月くらいの間、町内のイベントが中止となった。『カフェくすのき』も 2 カ月のお休み、講演会の日程変更、野外でのバーベキューを予定していた青少年文化センターや水分狭のキャンプ場が使えなくなり、室内でのランチパーティーに変更することになってしまった。支援対象者も被災したり、気持ちが沈んだりして、再開後の参加者が減少してしまった。チラシに手書きの手紙を添えるなどの工夫することで、年明けくらいから少しずつ参加者が戻ってきている状態である。

◆今後の課題・発展の方向性

「カフェくすのき」が入口として定着し周知されはじめたので、その次の段階として、今年は同じ悩みを持つ保護者がゆっくりと話せる『親の会』(自助グループ)を立ち上げ、定期的に開催したい。

今年度、コーディネーター6 名が 2 級心理カウンセラーを取得し、うち 4 名は 1 級心理カウンセラーの取得を目指してスキルを磨いている。不登校を経験した保護者や生徒の体験談を聞く機会を設けたり、必要に応じて、カウンセリングを行うなど、専門機関への橋渡し的な事業に取り組みたい。

また来年度は「ネウボラふちゅう」(福祉課)との連携を進めている。乳幼児期から情報を共有することで、早期に子育ての悩みを抱える家庭を発見し、寄り添うことが可能となる。毎月町内の 3 か所で行われる 9 か月健診に託児協力する形で、チームの周知や気軽に相談ができる関係を築いて行きたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度は、西日本豪雨災害という思いがけない事態に直面し、計画通りにカフェが開催できず、計画変更を余儀なくされた。予算も一部、缶バッチ制作の機械購入へ変更させていただいた。来年度、家庭教育の啓発になる標語を入れたバッチを作成し、配布していきたいと思う。

マツダ財団に支援いただいたことで不登校支援を継続することができ、色々な機関と連携し、情報を共有できるようになったことが今年度の一番の収穫である。網の目のように色んな方面からのアプローチがあることで、子育てに悩む家庭を少しでも多く支援することができるようになると思うので、府中町で子育てして良かったと思ってもらえるように、さらにきめの細かい支援をしていきたい。

| 活 動 名 | No.6 | 団 体 名 | 奥安芸の鉄物語たたらの楽校<br>実行委員会 |
|---|---|---|---|
| **奥安芸の鉄物語　紙芝居＆体験活動** | | 地　　域 | 広島県山県郡安芸太田町 |
| | | 代 表 者 | 林　俊一 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

活動概要

２０１８年　３月　紙芝居を使ったＷＥＢ配信　（あきおおたラジオ　住民１３名　実行委員２名）
５月「紙芝居シンポジウム・活動報告」
（まち物語制作委員会主催　代表・実行委員２名　来場２００名）
絵本制作着手
６月　Ｒ１９１　萩～阿武～安芸太田～可部　鉄の歴史文化をテーマにした現地調査
萩の紙芝居活動の視察　（代表・実行委員２名）
「中国地方地域づくりシンポジウム・活動報告」
（中国建設弘済会主催　代表１名　来場１０００名）
７月　紙芝居を使った体験プログラム（随時　参加者１７名）
１１月「全国たたらサミット・活動報告」
（鳥取県主催　代表・実行委員２名　来場２０００名）
１２月　加計高校によるペープサート　（生徒１１名　園児７０名）
２０１９年　１月　加計高校による寸劇　（生徒７名　園児３０名）
絵本完成　学校行事や、地域のイベントに絡ませながら無料配布　（１４００冊）
次の紙芝居に向けてシナリオ作り
２月　加計小学校　読み聞かせ　紙芝居活用

民話をベースに、喜劇化した絵本

紙芝居ベースの寸劇＆ペープサート

◆実施に伴う効果

２０１７年度、加計小学校３～４年生が、民話の読み聞かせでオロチのキャラクターを考え、プロの作家に手渡すことでレベルの高い紙芝居やキャラクターが生れていました。２０１８年度、高校生が自らシナリオを調整したり、ペープサートや寸劇のアイディアを出しながら上演することで、地域に眠る歴史文化への学びと、交流コミニュケーションの両方を得ました。

安芸太田町加計地区内ですが、保育園、小学校、高校が連携した活動に広がりつつあり、次への方向やテーマが見えております。私共にとっても、オリジナル紙芝居を制作する過程で、地域の歴史文化の素晴らしさを再認識することが多々ありました。

◆苦労した点

豪雨災害の影響で、広島市内から参加予定であった体験プログラム（団体）が中止になりました。組織力の無い実行委員会なので、体験プログラムへの参加者募集には毎回のように苦労しています。

図書館や市販の教材は、学校現場では著作権に縛られ、自由で創造的な応用ができません。それもあり、オリジナル紙芝居や絵本の制作に拘っていますが、歴史調査や資金集めなど、手間のかかる作業です。

◆今後の課題・発展の方向性

学校現場での紙芝居上演や教材提供は、将来的にも収益は望めません。今回の加計高校の生徒の自主上演に使った自作物に関しては、学校が教材費として捻出されました。自作のペープサートや寸劇であれば、費用が押さえられるように思います。

安芸太田町加計地区は、保育園と小中高が隣接しているため、連携した活動がやり易いです。次回に向けて準備中のシナリオや紙芝居は、小学生が楽しめ、高校生が地域イベント内で上演できる内容に調整しているところです。

◆活動を終えての感想・意見等

制作した絵本は、私共の８年間の活動の集大成として、学校現場と地域で共有しました。次の展開へのステップとなります。今後、この活動への資金不足は続くと思われますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

郷土史伝える「たたら」劇

たたら製鉄の紙芝居を基にした劇を披露する加計高生

加計高生、園児に披露

加計高（安芸太田町）の生徒が17日、近くの加計認定こども園あさひで、かつて地元で盛んだった「たたら製鉄」をテーマにした劇を披露した。住民グループが作った紙芝居を劇に仕立て、園児たち約30人に地域の歴史を伝えた。

劇は同町を訪れた男子児童が江戸時代にタイムスリップし、たたら製鉄を学ぶストーリー。授業で家庭科を選択する3年生7人が鍛冶職人や砂鉄を運ぶ馬などを演じた。

紙芝居は、地元の住民グループ「奥安芸の鉄物語たたらの楽校実行委員会」が地域の歴史を伝えようと制作。同校に活用を呼び掛けていた。生徒は、昨年12月から小道具を作るなど準備を進めた。

同園の石田結葉ちゃん(6)は「たくさんの人が出てきておもしろかった。また見たい」と笑顔。同校3年新田菜々さん(17)は「地域で作られた鉄が生活を支えていたことを、園児が覚えていてくれたらうれしい」と話した。（山田太一）

ご葬儀は 平安祭典 0295-1111

2019/1/18　中国新聞　朝刊

| 活 動 名 | No.7 | 団 体 名 | 鞆の浦の共生を実行する会 |
|---|---|---|---|
| **若者と高齢者が共生する街づくり活動** | | 地　　域 | 広島県福山市 |
| | | 代 表 者 | 牧田幸文 |
| | | 支援金額 | １５万円 |

活動概要

昨年度から取り組んでいる、高齢化する鞆町において、地域住民と学生や若者が一緒になって、高齢者の見守りと空き家対策、防災活動に取り組み、地域の活性化と若者の連携・交流を目指した活動を実践した。

４月 17 日; 福山市立大学にて「ボランティア」説明会を実施した。
５月９日、６月１３日、７月４日; 空き家清掃活動の実施
７月 28 日; 鞆の浦体験（魅力発見・発信）
８月４日・５日; 鞆町・平の祭り参加（４日はさくらんぼと子供達の祭支援・５日は平町の祭参加と交流会）
８月 21 日; 鞆中学校・福山市立大学連携授業に参加
９月 12 日～14 日; 鞆町での民泊受け入れに協力（中学生の受け入れと案内）
９月 17 日; 鞆敬老会にボランティアとして参加
10 月 10 日; 空き家プロジェクト（地域の空き家の現状を把握する・防災との関係でどう管理するかを学ぶ）
10 月 11 日; 鞆公民館にて、人権学習会に参加
10 月 23 日・24 日; 福山市の地域活性化推進フィールドワークに参加して、鞆町の新しい魅力を発掘する活動と協働した。
２月 16 日・17 日; 大崎上島・移住者と地域住民の交流の現場を見学。高齢化する地域社会での若者・ヨソ者を取り入れたコミュニティー活性の具体的手法を学んだ。

空き家の清掃活動

地域活性化推進フィールドワーク

８月鞆町平の祭り

大崎上島地域起こし見学

◆実施に伴う効果

昨年から、継続して鞆町にある空き家の清掃活動を実施した。昨年からのメンバーも参加して多数の学生の参加があった。また、地域活動に関心のある学生と建築デザインに関心のある学生が協力して、清掃を通して地域住民と話をする機会を得たことが、フィールドワークとして大きな成果となった。
また、地域の魅力発信をする活動を今回新たに取り入れ、福山市との連携をとって、学生や留学生の視点から鞆町の魅力を発掘する活動も取り入れた。新しい視点から鞆町の魅力を発見した。

◆苦労した点

現在取り扱っている空き家は、大規模なものであり、改修の費用がかかる。そのため空き家清掃活動後の活用については、未定である。空き家の具体的な提案はあるものの、改修の費用をまだ集めることができず、まだ具体的に進めることができない状況となっている。そうした背景から、ボランティアの学生達の提案や今後のプランを立てにくく、来年度は改修費用をどう獲得するかを検討する必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

鞆町全体の空き家の状況とその周辺の道や環境状況を把握して、安心安全な地域づくりを行いたい。鞆でも、7 月の豪雨によって、土砂が流れ出した町内があり、空き家と防災そして地域活動にどのように取り組むことができるのかを再検討する必要がある。また、地域住民と協力して、学生や若者、新しく移住してきた人達と一緒になって地域連携づくりに参加していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

2 年間の鞆町での活動を通して、ボランティアで参加した学生に対して、地域住民が認識してくださるようになった。「また、祭に参加するのか？」という声をいただき、地域住民には肯定的に学生の活動は受け入れられていると感じた。今後は、地域には定住しないが、関係住民として学生が鞆町平地区の活動に継続して参加し、現在清掃している大きな空き家の活用計画をより具体的に住民とともに進めていきたい。

| 活 動 名 | No.8 | 団 体 名 | しも JOY |
|---|---|---|---|
| **お母さん、見守って！私たちでできるから！** | | 地　　域 | 広島市 |
| | | 代 表 者 | 三木彩 |
| **こどもたちで創るこども食堂** | | 支援金額 | ２５万円 |

| | |
|---|---|
| 活動概要 | 次世代を担う子供達の自分発見。 自律を目指す居場所づくりのために地域の大人たちを巻き込みこどもたちで作る子ども食堂を実施。 |
| 2018 年<br>2 月 18 日（日）<br>下庄会館 | 小学生 5 名と高校生 1 名のこどもシェフによりお味噌汁とおむすび、スイーツ（スコーン 2 種）を作り、地域の方々をおもてなし。ご近所のおばあちゃん達も食べに来てくださり、和気あいあいとした時間を共有。 |
| 2018 年<br>5 月 27 日（日）<br>AsaKafe | 初めて地域外での開催。お料理好きのこどもたちが 2 名参加し、お味噌汁おむすびピザ作りにも挑戦。こどもたちはのびのびと、大人たちはほっこりと楽しい時間を過ごした。 |
| 2018 年<br>6 月 3 日（日）<br>深川集会所 | 地元大学（広島文教大学）とのご縁を頂き、人間栄養学科の学生さん数名が参加。集まった小学生のこどもシェフと一緒に調理をしたり、ゲームをしたり、栄養のお話もしてもらい、こどもたちはお味噌汁とおむすび、そして持参したお野菜を使って新メニューにもチャレンジし、地域の方々をおもてなしした。 |
| 2018 年<br>7 月 29 日（日）<br>AsaKafe | 大雨警報がでていたため、中止。 |
| 2018 年<br>8 月 11 日（土祝）<br>下庄会館 | 地元大学の学生さんとこどもたちがおむすびを作り、大人たちはペットボトルでそうめん流しの台を手作りし、みんなでそうめん流しをした。スイカのフルーツポンチも手作りし、小さな子供から大人まで楽しんだ |
| 2018 年<br>10 月 28 日（日）<br>深川集会所 | 7 月の豪雨で地元深川も被災したこともあり、『防災』について考え、『家庭にあるもので作る災害時グッズ作り』と『災害時メニュー』を作った。こどもシェフも増え 13 名の小学生が参加。カセットコンロで調理をし地域の方々と一緒に『防災』について考える時間を持てた。 |
| 2019 年<br>2 月 10 日（日）<br>深川集会所 | 新年にちなんで、みんなで『おもちつき』。臼と杵を使ってペッタンペッタンと。せいろでご飯を炊いたり、とん汁を作って地域の方々と交流した。こどもシェフは 17 名の参加。お客様も増え（55 名）賑やかなお餅つきとなった。参加している地元学生さんは、今回より新メンバーに変わり、来年度も協力いただく予定。 |

回を重ねるごとに地域の認知度も高まり参加者が増え常連さんもできました。最初 5 名から始まったこどもシェフもだんだんと人数が増え毎回参加してくれるこどももいます。

◆実施に伴う効果

・こどもたちだけで調理を行うため（大人は見守り）とても生き生きした活動となり、次のことを考え手際よく行動できるようになった。（自律への変化）
・地元大学生の参加により、小学生がより生き生きと活動できるようになり、参加者が徐々に増えていった。（学校で学んだことの実践の場）
・こどもたちが地域の方々をおもてなしすることにより高齢者と小学生の交流が生まれ時間を共有できた。（異年齢交流）
・普段はなかなか話をすることのない高齢者同士、大人同士の交流も生まれた。（居場所作り）
・地域のコミュニティづくりの場となった。

◆苦労した点

・最初は、なかなかこどもシェフが集まらず告知方法に苦労した。
・高齢者は、開催会場の近くの方は参加され易いが、遠方の方が参加しにくい。
・こどもと高齢者のコミュニケーションの取り方が難しい。
・お客様である大人の待ち時間の工夫など。
・地元住民の方とつながりのない土地での開催は、理解を得ることが難しく、参加してくださった方が地域外の方となった。
・参加するこどもたちが毎回参加するわけではなく、当日のことはこどもたちにお任せできたが、それまでの準備（チラシ作りなど）をやってもらうまでには至らなかった。解決策として地元小学校に「こどもシェフ募集」のチラシの配布をお願いした。待ち時間に大人がおしゃべりしながら手作業できるものを考えた。

◆今後の課題・発展の方向性

お客様である大人や高齢者の方々が待ち時間に手持ち無沙汰な様子だった。こどもたちも調理することや料理を出すことは得意になってきたが、コミュニケーションを進んで取ることは難しい様子だった。特に、高齢者の方は、こどもたちに何か教えてあげたいという気持ちが強く、見守るだけのスタンスは物足りないということがわかった。今後は、高齢者の方から何かを教わったり、一緒に作業する喜びをお互いに味わえるよう体験の枠を広げ工夫を凝らすことが必要になってくるであろう。また、子供の一人一人に得意なことも様々でなので縛りのない自由な活動ができるように見守ることも重要になってくる。一人一人が輝ける未来へ向けて進化するために器づくりをしたい。

◆活動を終えての感想・意見等

この度助成をしていただき、こどもたちが生き生きと活動できる『居場所』を作ることができ、本当に感謝しております。今年度、予期せぬ災害にもあい、地域のつながりの大切さを思い知らされました。普段関わることのない＜こども＞と＜大人＞が一つの空間で同じ時間を共有することにより生まれるコミュニティの大切さ、そして、次世代を担うこどもたちが生き生きと活動し、『自律』を目指せるよう、今後も継続していきたいと思っております。まだまだ多くの課題はありますが、こどもも大人も一緒に楽しめる空間づくりのさらなる進化を目指す所存です　。

| 活 動 名 | No.9 | 団 体 名 | 美鈴恵みの森づくりボランティア |
|---|---|---|---|
| **地域の里山を舞台とした、教育研修イベント** | | 地　　域 | 広島市佐伯区美鈴が丘 |
| | | 代 表 者 | 松本　満 |
| | | 支援金額 | 10 万円 |

活動概要

・そうめん流し（７月中に３回実施）

椿谷広場にて実施。椿谷広場に流れる、鬼が城山からの豊富な湧き水を使いそうめん流しを行った。

夏のひととき、地域の子供から大人まで、そうめん流しを楽しみながら涼んでもらい、同時に親睦を深めてもらうことができた。

そうめん流しの台は、団地に隣接する孟宗竹林の竹を使用した。

手作りのそうめん流しの台に使用する竹のカットには、ご支援いただきました電動ノコギリが大いに活躍しました。

・木工クラフト（８月に１回・１２月に２回実施）

里山の自然から入手できるドングリ、マツカサ、竹、樹木などを題材にした工作をレクチャー。

児童を対象とした工作入門コース・小学生を対象としたやや高度な工作コースを用意し実施。

８月のイベントでは主に竹（孟宗竹）を使用した作品づくりを実施し、１２月のイベントではクリスマスリース・杉玉づくり・門松づくり・竹筒づくりを実施しました。

８月実施　木工クラフトイベント

８月実施　木工クラフトイベント

１２月実施　リース・門松づくり

１２月実施　リース・門松づくり

◆実施に伴う効果

地元の里山整備と同時進行で行っている、地域とのふれあいを中心とした教育研修イベント。

流しそうめんイベントやリース・竹筒など、地域の里山で手に入る材料を使ってのクラフトイベントを通して森に対する興味を持ってもらい、里山の整備や保全の重要さ、自然の中で過ごす魅力を知ってもらうことができたのではないかと思います。

同時に、地域の多様な年齢層の方々同士の交流のきっかけづくりにも大いに貢献できました。

今後も、これらのイベントを継続して行っていきたいと思っています。

◆苦労した点

・お手洗い

高齢者や女性・子供の集まるイベントにおいては特に必要な設備。

イベントに使用している、拠点多目的広場へのお手洗いの設置が急務。

お手洗いがあれば、イベント参加者がより一層安心して長時間滞在ができる環境になります。

・駐車場所の確保

用地の都合上、駐車場のキャパシティが不足気味。

来場者の駐車場所の一層の確保が望まれる。

◆今後の課題・発展の方向性

里山整備、特に竹林整備は、継続的・不変的な手入れが不可欠な作業。

美鈴が丘周辺は大木が分布する森林・竹林が比較的多く、それらが住宅から近い場所にある。

安全や地域資源利用の観点からも、これらの整備活動には多大な費用・設備・人の力が不可欠。

活動メンバーや地域の高齢化に伴い、不変的な継続活動における負担が増大している。

若い人にももっと広く里山整備の重要さを知ってもらい、これらの活動を継続・継承していくことが、これからの大きな課題です。

◆活動を終えての感想・意見等

そうめん流し、木工クラフトイベントなどの活動を通して、この度もたくさんの子供たちの笑顔を見ることができました。

自然に触れ合う楽しさ・素晴らしさを知ってもらうことができたのではないかと思います。

貴団体から賜りました助成によって導入することができた装備により、イベントの準備作業・材料の確保作業の効率も飛躍的に向上し、より一層充実した内容のイベントにつなげることができました。

| 活 動 名　No.10<br>**～未来をつくる子ども達に贈る～<br>自然の中で、共に楽しみ学ぶ！<br>ネイチャーファシリテーター養成講座** | 団 体 名 | NPO 法人<br>三段峡―太田川流域研究会 |
|---|---|---|
| | 地　　域 | 広島県山県郡安芸太田町 |
| | 代 表 者 | 理事長　本宮　炎 |
| | 支援金額 | ４０万円 |

活動概要

**－インタープリター養成講座－**（講師：公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長　川嶋直）

インタープリターの第 1 人者を招き、三段峡でのインタープリターを養成した。

日時：9 月 1 日　自然をフィールドに人がお互いを尊重し共に活動する技術とこころを学んだ。

9 月 2 日　実際に参加者同士でインタープリテーションを実際に企画し体験した。

また、フィードバックを行い、体験会につながった。

場所：　三段峡正面口付近　三段峡ホテル　　参加者：　延べ 50 人

**インタープリテーション　自然・文化・歴史（遺産）を分かり易く人々に伝えること。自然についての知識そのものを伝えるだけではなく、その裏側にある「メッセージ」を伝える行為。あるいは、その技能のこと。

**－インタープリター養成講座の勉強会－**計 6 回　　参加者：　延べ 40 人

インタープリター講座の事前学習や事後学習を持続的に取り組み参加者同士で知識を共有した。

**－自然体験教室－**　「自然に触って、視点を変えて楽しむ」をテーマに、自然体験教室を開いた。教室の内容は講座を受講したメンバーと企画した。

日時：10 月 7 日　NPO 法人ひろしまジン大学とコラボし、手作りの紙フィルターを使った自然体験等を行った。

10 月 13 日　町内外の小学生を対象に自然を楽しむをテーマに「はっぱじゃんけん」や「たんけんごっこ」「キノコ発見隊」などの自然体験アクティビティを行った。

10 月 27 日　町内外の小学生が男女のグループに分かれ、「森のレストラン」や「コケ研究隊」などの自然体験アクティビティを行った。

場所　三段峡　対象　小学生＋大人　　参加者：　延べ 60 人

「養成講座での 1 ページ」（講座でのフィードバックの様子）

「はっぱじゃんけん」（自然で遊ぶインタープリテーション）

「よ～く見てみよう」（自然観察）

「はっぱはね、・・」（インタープリテーションの実施）

◆実施に伴う効果

この講座を開催したことにより、当団体内にインタープリテーションと言われる新たなガイド手法が導入された。この手法をツアー作成に活かすと共に、講座後の自然体験教室の実施により技術の定着が図られた。また、継続的に学ぶために講座参加者の当団体への入会があった。

自然体験教室では参加した小学生に対して遊びながら学ばせる体験を行い、参加した児童の評判も上々であった。遊ぶだけの体験活動から、学びを伴う意義の深い教室へと成長した。

また観光地であった三段峡が環境教育の重要なフィールドとして発信でき、豊かな自然の価値や楽しみ方を伝える団体として認識された。

本事業は、一回限りの講座ではなく、インタープリター養成の人材育成設計がなされ、大きな効果を上げる事ができた。講座へは安芸太田町内外からの参加があり、事前学習会や事後の自然体験の実施などにより、それぞれの現場でのフィードバックが行われたと共に、講座で出会った受講者間でのあらたなプロジェクト（参加者の自主的な呼びかけにより市内の幼稚園での自然体験の取り組み）が始まった。

事前・事後学習では学びの定着化が図られ、仲間との試行錯誤により参加者がガイドプログラムを作成できるまでになった。自然体験教室では受講者の実践の場となったと共に、参加した児童が普段できない体験と学びを得て、青少年育成にも寄与することができた。

町内からは、既存のガイド団体（あきおおた森林セラピー推進協議会）の参加があり、ガイドの新しい手法の提供と、推進協議会のガイド人材育成に資することができた。

事業全体を通して、自然資源を伝える仲間やガイド団体が出会い、共に学び、子ども達に地域の自然の価値を伝える思いが芽生えた。講座での参加者同士の取り組みや、講座後それぞれフィールドでの実践が行われ、未来を創る子ども達に自然体験と環境学習を行う取り組みが活性化した。

◆苦労した点

講習や子ども達への参加者集めの広報活動において、自分たちの持つメディア規模が小さいために、十分な周知が難しかった。

うまく協働や繋がりをつくれた面もあったが、講習参加者でグループ作成など、継続的な情報共有の為のシステムつくりに難しさがあった。

◆今後の課題・発展の方向性

継続的に行うため、講習に参加した方への継続的な声掛け・かかわりを大切にする。

三段峡をはじめとする太田川流域等の西中国山地で本事業で学んだインタープリターが活躍すること、また、今後も三段峡等でインタープリターが自然の価値を伝えるエコツアーを行い続けることを目標にする。

◆活動を終えての感想・意見等

助成をいただき、ありがとうございました。

おかげをもちまして、日本を代表する自然体験型環境教育の開拓者である川嶋直先生を招き、三段峡でインタープリター養成講座を開くことができました。2 日間の講座を修了したものには修了証書を授与し、そのメンバーから 7 名が三段峡での体験会に参加しました。

自然体験教室では、多くの子ども達に自然の価値や楽しさを伝えることができました。

子ども達の目はきらきらと光り、明るい未来を感じることができました。

次回以降青少年の健全育成等助成申請を行うと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.11 | 団 体 名 | NPO 法人<br>もりメイト倶楽部 Hiroshima |
|---|---|---|---|
| 環境教育研究部会「もりメイトキッズ」 | | 地　　域 | 広島 |
| | | 代 表 者 | 理事長　山本恵由美 |
| | | 支援金額 | １８万円 |

**活動概要**

【もりメイトキッズ「わくわくもりの学校」：子ども森林ボランティア養成講座】

子供達の環境教育を目的として、年４回に渡り、大竹市松が原の森林フィールドにて森林整備を行いながら自然の大切さや森林で過ごす楽しさ、そして生物多様性の重要性を教えている。

今年は「自然を深ぼり」のキャッチフレーズを掲げ、昆虫や鳥の視点から見た自然の大切さを学ぶ

活動場所：広島県大竹市松ケ原町（倶楽部会員の所有する森林を使用）　ﾌｨｰﾙﾄﾞ面積約 3.5ha

活動内容：第１回　2018 年４月 15 日（日）９：50～15：00
フィールドビンゴと滑り台設置、森の小屋の床板張り

第２回　2018 年６月 10 日（日）９：50～15：00
昆虫観察会：里山づくりの重要性を昆虫の生態系を通して考える

第３回　2018 年８月　５日（日）９：50～15：00
森林整備と間伐材を使ったクラフト（ペン立て木絵）

第４回　2018 年 10 月 28 日（日）９：50～15：00
野鳥観察会：野鳥の特徴や、里山、森林との共存を学び、巣箱を設置。
また野鳥が巣箱を見つけらるよう、周辺の雑木を整備する

【環境研究部会（もりメイトキッズ打合せ、イベント事前勉強会）】

活動場所：主に広島市中区袋町　合人社ウエンディひと・まちプラザ

活動日時：主に毎月第２月曜日　　18：30～20：30

フィールドビンゴで植物（ミツマタ）の匂いを嗅ぐ子供達
（2018 年４月 15 日）

毛虫を捕まえ、整備された里山が食物連鎖を生み出す重要性を説く講師（2018 年６月 10 日）

間伐材で子供たちが製作した木絵（作品は鉛筆立て）
倶楽部のクラフト部会の発案（2018 年８月５日）

整備した巣箱の周りで記念撮影（2018 年 10 月 28 日）

◆実施に伴う効果

昆虫や野鳥、動物の目線で見た自然は人間より密接で、生物多様性を保つためには里山整備や森林整備で多種の植物を成育させることが不可欠であるなど、違う目線で見た時の自然の大切さは新たな発見であり、漠然としていた自然というものが、深ぼりできたのではないかと思う。

子供はもちろん参加している保護者も興味深く講義を聞いていた。また、参加者がより一層、森林整備に精をあげていた。

◆苦労した点

今回のように、財団から支援をうけたり、参加費を徴収しての活動の場合は、スーパー等からチラシの配布を断られる場合がほどんどである。ＳＮＳ、口コミでの宣伝方法に新路を見出す必要がある。

ボランティア＝無料奉仕、という概念を払拭していかないと、今後、ボランティア活動が衰退する可能性があることを、もっと世間一般に認識してもらう必要性があるのではないかと思う。

◆今後の課題・発展の方向性

参加者を増やす手段と、スタッフ、学生ボランティアの拡充とスキルアップのために、勉強会や経験に基づく意見・提案の活発化を目指す活動を行っていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

もっと多くの人に、森林整備の重要性、とくに昨年起きた豪雨災害のような被害がおきないようにするために今しないといけないことを微力ながら伝えていきたい。

| 活動名 | No.12 | 団体名 | 一般社団法人ふるさと楽舎 |
|---|---|---|---|
| 瀬戸内・地魚学ぶんジャー<br>～さかなを学んで学生ボランティアリーダー育成～ | | 活動地域 | 広島市 |
| | | 代表者名 | 代表理事　秦野英子 |
| | | 支援金額 | 40 万円 |

**<活動概要>**

○活動目的

・魚への親近感や魚を食べることに対する興味をはぐくみ、こども発信で家庭内での魚調理の機会を増やす。

・学生ボランティアの育成を行い、学習会ではリーダーとして参加するこども達をサポートしながら自らも魚への興味を深め、主体的に行動できるようになる経験の場を提供する。

○参加対象　小学 1～6 年生 21 名と大学生ボランティア 4 名(各々2018 年 4～5 月に公募)

○開催内容

瀬戸内海の魚について体の仕組みと上手な食べ方や、食卓に上がるまでの流れ(フードチェーン)を学ぶ、全 8 回の学習会を開催

○活動実施担当(当時)　力本夕佳里・おさかなマイスター

| 回 | 日 時<br>場 所 | 内 容 | ねらい |
|---|---|---|---|
| 事前 | 5/26(土) 10～12 時<br>若者活動ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰあおぞら | ・学生ボランティア顔合わせ<br>・活動主旨説明<br>・煮干しの解剖 | ・ボランティア活動の心得や注意点をレクチャー<br>・魚に親近感を持つために煮干しの解剖を実施(こども達が同解剖を行う際の事前学習とする) |
| 1 | 6/9(土) 10～12 時<br>三篠公民館 | 【お魚を知ろう】<br>・参加者顔合わせ<br>・瀬戸内海の環境と魚について講義<br>・煮干しの解剖 | ・瀬戸内海の環境や生息する魚について学び、今後の市場見学や調理実習時の効果的な学習理解につなげる<br>・煮干しを解剖し、魚の体のしくみを知る<br>・講師:<br>広島大学生物圏科学研究科海野教授<br> <br>海野教授による<br>チヌの解剖 |
| 2 | 7/27(金) 4～8 時<br>広島市中央卸売市場 | 【お魚を見よう①】<br>魚市場見学 | ・海で獲れた魚がお店に並ぶ品物になるまでの流れを知る<br>・市場がどんなところか、どんな人たちが働いているかを知る<br>・講師:広島水産㈱営業推進室<br>東課長<br> <br>活魚の競り見学 |
| 3 | 8/23(木) 9～12 時<br>フレスタ横川店<br> <br>鮮魚売場の見学 | 【お魚を見よう②】<br>・市場見学ふりかえり<br>・鮮魚加工工場(映像)及び、量販店鮮魚売場の見学 | ・市場見学の感想発表会実施により、見学の理解を深める<br>・魚が市場から加工場、量販店に並ぶまでの過程を知る<br>・量販店に並ぶ魚の種類、どのような姿や商品形態で売られているか、産地などどのような情報が売り場にあるかを知る<br>協力:㈱フレスタ横川店木坂店長、鮮魚売場社員の皆様 |
| 4 | 9/8(土) 10～13 時<br>三篠公民館 | 【お魚を食べよう】<br>・焼き魚の下ごしらえ<br>・焼き魚の食べ方 | ・魚に触れ、塩焼きにするための魚の下ごしらえを知る(マアジ)<br>・魚の骨格を知り、焼き魚を上手に箸で食べられるようになる<br> <br>マアジ塩焼きの下ごしらえ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | 10/6(土) 10～12 時<br>三篠公民館 | 【お魚を伝えよう①】<br>・「お魚ｱﾋﾟｰﾙｶｰﾄﾞ」作り<br>・簡単しらすﾚｼﾋﾟ紹介＆試食 | ・これまでの学びをもとに、好きな魚の旬や調理法・特徴等を描いた「お魚ｱﾋﾟｰﾙｶｰﾄﾞ」を製作。魚の絵を描く際、形態的特徴を知ることや図鑑や本による正確な情報入手の重要性を理解する<br> <br>図鑑で魚の特徴を確認 |
| 6 | 12/8(土) 10～12 時<br>三篠公民館<br> <br>木坂店長にカード授与 | 【お魚を伝えよう②】<br>・「お魚ｱﾋﾟｰﾙｶｰﾄﾞ」発表会<br>・木坂店長にカード授与式 | ・学びを形にすることで理解を深め、自分が好きな魚の説明ができるという自信をつける<br>・カードは 12 月にﾌﾚｽﾀ横川店鮮魚売場に掲示し、来客者の魚への興味関心、購買行動のきっかけを作る<br>ｹﾞｽﾄ:㈱ﾌﾚｽﾀ横川店木坂店長<br> <br>鮮魚売場での掲示の一部<br>〈ｶｰﾄﾞ店頭掲示期間〉<br>12/9～12/26 |
| 7 | 1/19(土) 10～12 時<br>三篠公民館 | 【お魚を学んで、食べて、伝えよう】<br>・まとめ<br>・学ぶんジャー隊員認定式<br>・柵切り体験 | ・学習会の修了と参加回数に応じた学ぶんジャー隊員階級※の認定を行うことで、こども達の達成感を育む<br>※参加回数に応じて、出世魚のように ﾔｽﾞ→ﾊﾏﾁ→ﾌﾞﾘと階級が上がる仕組み<br>・こども発信で地魚の魅力やおいしさを多くの人に伝える<br> <br>学ぶんジャー隊員認定式 |

**〈実施に伴う効果〉**

・学ぶんジャー隊員達からは「フードチェーンの理解ができた」「魚の魅力を伝えたい」という感想もあり、活動目的にそった反応が得られた。また、回を重ねるごとに隊員同士のつながりが深まり、互いに魚に関する情報交換をするなど積極的に学び、学習会を楽しんでいた。

・保護者から「家庭で魚の話題が多くなり、食べる機会が増えた、身近に感じるようになった」、「家でも魚の下処理をしてくれた」という声や感想があり、“こども発信で家庭内での魚調理の機会を増やす”という活動目的が達成できた。

・サポート隊員である学生達はサポートを通じて、魚が好きなこども達からも刺激を受け、魚に興味を持ち自らも積極的に学びを深めていた。

**〈苦労した点〉**

・欠席者へのﾌｫﾛｰ(当日資料の送付や次回の案内)

・最低限必要なサポートマニュアルを提示した上で、さらに、学生の自主的な行動を促すための指導・助言

**〈今後の課題・発展の方向性〉**

参加者・学生ともに、学校行事や習い事等で参加率が伸びない回があったため、今後は全回に参加することでフードチェーンの一連の流れを学べる体験学習会の体系は維持しつつ、単発でも参加可能なプログラムとする。

**〈活動を終えての感想〉**

こども達の想像以上の探求心と、保護者の方々の参加率に驚かされることも多かった。そのことが、学習会の内容充実に向けた活力になった。最終回では、こども達自身の提案で自慢の魚関連雑貨を持ち寄り、参加者全員で魚の会話をし、参加者相互の学びの場となった。

身近な食材であっても意外に知られていない魚情報を伝えることで、こどもも大人も魚に興味を持ってくれること、さらに、鮮度良く最適な処理をした魚の本当の美味しさは、みんなを笑顔にしてくれることを改めて感じた。こども達は決して「魚離れ」なのではなく、本当に美味しい魚の食体験を通じて、魚ﾌｧﾝを増やせる可能性を多大に感じた。今後も、こども達に魚の魅力やおいしさを伝える活動の意義を感じることができた。

| 活 動 名 | No.13 | 団 体 名 | NPO 昭和地区まちづくり協議会 |
|---|---|---|---|
| **未来をつくる地域リーダー　育成プロジェクト** | | 地　　域 | 広島県呉市 |
| | | 代 表 者 | 理事長　神田 晃典 |
| | | 支援金額 | ２０万円 |

活動概要

昭和地区も他地域と同様に、少子高齢化が進んでおり、若い世代が住みたいまちづくりが急務であり、昭和地区に在住している昭和高校の生徒を中心に将来の地域リーダー養成を手掛けた。
高校生に将来の地域リーダーの重要性と役割を認識してもらうために、手始めに地域と学校が抱える「本当の課題」を特定する方法や、見つけた課題に対して解決策を考えるプロセスを学び、グループがそれぞれ考えた解決策を発表した。（大学との連携）
高校生ならではの新しい視点での解決策が見出され、参加した地域住民と協働で解決していくと言う過程が生まれたことは、大いに成果があった。
将来の地域リーダーを養成するために、地域を見て、地域全体像をとらえる必要があると考え、当協議会が毎月発行している広報紙の一部紙面を提供し、企画・取材方法から記事作成までを地元業者の助言・指導の下に掲載紙面の特定エリアを提供した。その結果、地域内にどんな職場があるのかという疑問が沸き、高校生自らが地域内の仕事図鑑を制作するところまで発想が発展した。
地域内の事業者を取材訪問することにより、自分がどんな職業に向いているのかを、考える機会が生まれたことは大きな活動成果の一つです。

地域課題の問題点を洗出し（大学教授と）

地域住民を交えた地域課題の洗出し

地域課題の洗出し（高校生が考える）

地域団体（子育て世代）との交流

◆実施に伴う効果

特筆できる効果として、高校生が身近な地域の問題点を洗出し、通学時の交通マナーや通学路の安全性の問題解決策を地域に提案し、地域住民に協力を求めて通学路の安全を確保することになった。地域住民の一部で支援する気持ちが芽吹いた。

◆苦労した点

地域リーダー養成は、速成不可能であり、時間と労力が必要と痛感した。地域リーダー養成は地道な活動となり、地域住民や地域団体の協力が不可欠である。しかしながら、地域住民間並びに地域団体間の温度差があり、まちづくりは行政がするものであるという考えが多く見受けられ、まちづくりは行政任せでなく、地域住民自らまちづくりするものであり、いま地域リーダーを養成していかないと将近い将来地域崩壊の懸念がある。そのために、地域住民や地域業者が一丸となって取り組む必要性を説くことに苦労している。

◆今後の課題・発展の方向性

地域リーダー養成は、単年度での養成は不可能であり、長期展望での取組みが必要である。地道な活動で。地域リーダー育成は可能である。

取組みの初期段階では、「自分のため」「次世代のため」「地域のため」と意識は高いが、時間の経過とともに意識は薄れる可能性は高いと思われます。

また、未来をつくる地域リーダー育成プロジェクトで、地域で活動している団体や地域住民との情報の連携、ネットワークづくり早急に確立する必要がある。そのためには、資金力を高める必要があり、資金調達手段を確立する必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様のご支援により、未来を見据えた地域づくりを担っていく若年地域リーダーを育成するプログラムの糸口が見え、若者の地域に対する郷土愛を感じとる事ができました。

若年者の柔軟な発想を地域とともに、可能な限り支援し、地域リーダー育成を長い年月をかけて育成する必要があり、更なるマツダ財団様のご支援をお願い致したい。

| 活 動 名 | No.14 | 団 体 名 | 一般社団法人 RoFReC |
|---|---|---|---|
| **より好い地域社会を創る次代の理工系人材の育成実践** | | 地　　域 | 広島県三原市 |
| | | 代 表 者 | 岡田　吉弘 |
| | | 支援金額 | ３５　万円 |

活動概要

わが国は科学技術立国として繁栄し、豊かな生活や暮らしをつくってきた。しかし、若者の進路選択の理工系離れが叫ばれて久しいように、科学技術やものづくりに対する好奇心をのばす教育の機会は不足しているのが現状である。

そこで、青少年が科学技術の楽しさを体験し、深い学びを得られる場づくりを行うことにした。青少年の主体的に学ぶ姿勢を育むことを目指して、以下の４種の取り組みを行った。

① ICT 教育先進校の授業カリキュラム調査（東京都内小学校/2018 年 6 月）

② 出前授業第一回目（三原市内児童発達支援施設/児童 30 名対象/2018 年 6 月）
出前授業第二回目（三原市内学習塾/児童 10 名対象/2018 年 7 月）

③ ミハラサイエンス遊園地（三原市内のイベントスペース/児童生徒 200 名対象/2018 年 10 月）
※ミハラサイエンス遊園地実行委員会の立ち上げ

④ 地域貢献プログラミング講座（三原市内のイベントスペース/児童 3 名対象/2019 年 2 月）
※地域の店舗へロボットを設置する講座

これらの取り組みは、知識や技能をのばすだけでなく、困っている人のためや社会課題を解決するために、科学技術の活用を教えることを狙いとした。何のために理工系分野を学ぶのか、ということを青少年が腹落ちすることを目指した。実際に、地域貢献するロボットをつくることで、自分たちの学習がいかにより好い社会とつながるか実感する機会を提供した。

東京都内の ICT 教育先進校を視察

科学技術体験の出前講座の実施

ミハラサイエンス遊園地

地域貢献プログラミング講座

◆実施に伴う効果

ICT教育先進校の授業カリキュラム調査、とても効果があった。出前講座やプログラミング講座等の内容へのインスピレーションを得ることができた。

また、出前講座を子供たちが集まる施設や学習塾で多数開催することで、科学技術に関する興味関心を持ち、さらに、社会の発展のために将来ものづくりに携わりたいと思うようになった子を増やすことができた。

さらに、ミハラサイエンス遊園地の開催では、三原市教育委員会後援、市民団体共催によって、地域連携のコミュニティ形成（ミハラサイエンス遊園地実行委員会の発足）を行うことができ、イベントには親子が楽しく参加してくれた。科学や技術の楽しさに触れ、「なぜなのかな？」と考えることの大切さを訴えるきっかけとなった。

また、地域貢献プログラミング講座では、児童生徒のプログラミングしたロボットを店舗へ設置することで、プログラミング学習の目標設定を明確化することができた。

◆苦労した点

ミハラサイエンス遊園地は、地域連携のもとに開催することができた。これは、地域に根付いた活動として、マツダ財団の市民活動支援の方向性と合致しているものととらえている。

一方で、地域連携にはさまざまな配慮や、意思決定にエネルギーを要する面があるため、事務局の仕事量が想定をはるかに上回った。もちろんミハラサイエンス遊園地への運営側の参加者が増えて、企画を持ち込んできてくれたことは、大変にうれしいことであったが、一方で手が回らない部分があり、ブースの中には準備不足がある等の課題が残った。次年度は、余裕を持った計画づくりと、事務局作業のフォローをしてもらえる体制づくりを検討したい。

◆今後の課題・発展の方向性

ミハラサイエンス遊園地を継続開催していきたい。ミハラサイエンス遊園地実行委員会 2019 のたちあげは、春先に予定しており、2018 年の経験を生かしてさらなる発展をとげていきたい。次回は、子供だけでなく、親も参画できるような仕組みにすることで、家族で楽しめるテーマパークとして盛り上げていきたいと思っている。その上で、運営費をどのように確保していくか、ということが課題である。

◆活動を終えての感想・意見等

「マツダ財団より助成を受けている」ということが地域の信頼をあつめるきっかけになった。地域活動を進める中で、「マツダ」が大きな存在であることは、あらためて実感した次第である。新たな出会いやご縁が増え、活動の幅が広がったことを心より感謝申し上げる。

科学技術というと難しそうなイメージを持たれることが多いが、それが楽しいものである、ということを伝えていくことは尊い活動であると自負を持っている。また、原子力爆弾が投下された広島だからこそ、「平和のための科学技術」「人々の幸せのための科学技術」を心の底から訴えていく活動を継続していきたいと思っている。

| 活 動 名 | No.15 | 団 体 名 | NPO 法人フリースクール木のねっこ |
|---|---|---|---|
| **循環型の地域発信** | | 地　　域 | 広島市安佐北区→廿日市市 |
| | | 代 表 者 | 田上美由紀 |
| | | 支援金額 | ３５万円 |

活動概要

学校に行かない・行けない子どもが、心身ともに健全で自分らしさを発揮し、社会で生きていく力を養うことを目的としてワークショップ形式で色塗りや木材切断などを子どもたちが行い、既存のウッドデッキに風雪に耐えうる屋根を自らの創造力の下、創作し、その維持管理を試行錯誤した。風雪に耐えるという点が今回の企図を象徴するこの屋根作りを通じて、子どもが、自分らしくあるための経験を積み、自らの足で立って歩き、前進していくことを促していった。この屋根つきのウッドデッキでは、福祉・教育・地域を越えた幅広な人々とつながりを持ちながら個性豊かな循環型社会づくりのためのイベント会場として、定期的に利用していく。

＜活動の日時＞

9 月 10 日～3 月 31 日

＜場所＞　広島県山県郡北広島町都志見　木のねっこログ

＜協賛団体＞　久地北・太田川げんき村

＜参加人員＞　こども延べ 30 人／大人延べ 55 人　　参加総人員　８５　　名

＜活動の具体的内容＞

・イベント開催場所である木のねっこログのウッドデッキに、風雪に耐えうる屋根を建設

・ＤＩＹワークショップを開催し、子どもやその保護者、スクール支援者に参加してもらい、屋根材の色塗りや木材切断、ビス打ちなどを行う。これにより、自ら創造する経験の場を提供する。

・屋根のできたウッドデッキで、子どもたちや関係者の出店、ダンス発表などを行うイベント「木のねっこふぇす。」を開催。

ふぇす。中にも作業しました

みんなで創ったウッドデッキの屋根

みんなで結作業

こどもも大きな釘を打ちます

◆実施に伴う効果

・自らの力で、既存のウッドデッキに風雪に耐えうる屋根（風雪に耐える点が今回の企図を象徴）を試行錯誤しながら創作することを通じて、学校に行かない・行けない子どもが、自分らしくあるために経験を積み、自らの足で立って歩き、前進していくことを促す。

・そうした子どもが、心身ともに健全で自分らしさを発揮し、社会で生きていく力を養うことができる。

・この創作する屋根が付いたウッドデッキでは、福祉・教育・地域を越えた幅広な人々とつながりを持ちながら、個性豊かな循環型社会づくりのためのイベント（※「木のねっこふぇす。」会場として、定期的に利用していく。

※「木のねっこふぇす。」

・子どもたちが自ら出店。自分で企画し、作り、売ることで社会経済の仕組みを知る。多様な暮らし、生活を営む広範囲地域の人との交流の機会ができる。
自分の力が自分でよくわかる。試行錯誤で次につながる意欲や自信がもて、将来の自立につながる

・地域内外や他のフリースクール、ホームスクーラー、市民団体、多様な社会人との実践的な関わり、異職業間交流、情報交換の場所となる。

・「ひと」「もの」が循環するので、一人一人が大事にされ、必要なものが必要な人に届き、得意なこと好きなこと、創造性を発揮し、たくさんの人とつながり豊かな場所となる。

・活動の拡大により、当スクールだけでなく、全国のフリースクールや地域協働のモデルとして事業の参考にしてもらうことができる。

◆苦労した点

・当初の予算より大幅に削減したため、無償ボランティアやフリースクール生の保護者に建設の多くを助けていただき、地域の方にも材料を安く提供していただいた。

・建設時の天候が左右し、予定より作業日程が延長した。

・豪雪地帯の屋根づくりは、より強度が求められるが、予算の都合上、専門講師の招致が難しく、素人で工夫しながら創っていった。

・常時駐在していないため、季節ごとに波板や日よけのれんなど使い分けることにした。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題

・風雪に耐えられる屋根を維持強化するため、引き続き、屋根のメンテナンス作業が必要。素材の使い分け。

・ボランティアスタッフの人員確保

・活動継続のための資金調達

発展の方向性

・こどもたちの DIY 上達度に合わせ、薪小屋、倉庫、露天風呂なども建設していく

◆活動を終えての感想・意見等

フリースクールの活動の中で、大きなイベントである「木のねっこふぇす。」では、雨天時にはイベントの出店規模を縮小しなければならず、出店物も雨に濡れて大変でしたが、屋根ができたことで、より発展したふぇす。を開催できると思います。

今回の助成を受けて、保護者の方や地域の方にも助けていただき、みんなで力を合わせて創っていく喜びを子どもたちと共に経験することができました。ふぇす。中にもワークショップを開催したこともあり、立ち寄っていただいた地域・教育関係者の方々にも、自ら作り上げ維持していく活動そのものを見ていただくことができ、よかったと思います。

この度はご支援をいただき、本当にありがとうございました。

| 活 動 名 | No.16 | 団 体 名 | めんがめ倶楽部 |
|---|---|---|---|
| **ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成** | | 地　　域 | 広島県三次市作木町 |
| | | 代 表 者 | 岡田　修司 |
| | | 支援金額 | １２万円 |

活動概要

1　ブッポウソウ保護活動ボランティアを育成するための講座を開催した。

講座は，ブッポウソウの子育てに合わせた３回の講座で，保護活動ボランティア育成のため，１５名の一般募集を行い，三次市作木町の「文化センターさくぎ」で開催した。

第１回　5月 27 日（日）　10:00～12:00　内容「森の宝石」ブッポウソウの生態を学ぼう
第２回　6月 24 日（日）　10:00～12:00　内容　ブッポウソウがエサとする大型飛翔昆虫について学ぼう
第３回　7月 15 日（日）　10:00～12:00　内容　作木町内の営巣状況を調査しよう

講座開催実績　受講者　１７名　（累計受講者　６０名）

2　ブッポウソウがエサとする昆虫の調査（川の生き物観察会）を実施した。

ブッポウソウ観察小屋（三次市作木町伊賀和志）の前を流れている普通河川「天神川」で，子どもたちと生き物調査を行い，ブッポウソウがエサとしているトンボのヤゴなどの観察を行った。

開催日　8月１９日（日）　10:00～12:00　一般募集人員４０名
川の生き物観察会開催実績　　参加者　３９名

ブッポウソウ講座

ブッポウソウ講座

川に入って生き物の採取

川の生き物についての説明

◆実施に伴う効果

1　ブッポウソウ講座の開催

受講者は，地元の三次市内だけではなく，広島市，東広島市からの参加があった。受講者からアンケート調査をしたところ，講座内容については好評で，作木町の保護活動に協力したいという方が６名おられた。

また，ブッポウソウ講座の開催を契機に，講座開催場所の「文化センターさくぎ」に併設している三次市立さくぎ図書館に「ブッポウソウ」に関連する書籍のコーナーが新たに設けられた。

2　川の生き物観察会

８月１９日（日）に開催した川の生き物観察会は，トンボの幼虫のヤゴやカゲロウの幼虫など，川の中にはたくさんの生き物がいることを採取体験から学び，また，これらの生き物の生態を学ぶことで，水を大切にしなければいけないということを子供たちに学ばせることができた。

今回の観察会では，ブッポウソウ講座の受講者も参加していただき，２８種の生き物を観察でき，西日本豪雨による川の氾濫にも負けず逞しく生きる多くの生き物たちを子供たちといっしょに観察することができた。

◆苦労した点

1　ブッポウソウ講座

７月６日からの西日本豪雨により，ブッポウソウ講座の第３回を中止した。県内の被害の状況から，講座は止めようと考えたが，受講者から開催してほしいとの声があったため，延期して実施した。第３回講座はマイクロバスで町内を廻り，営巣状況を調査する内容であったが，豪雨による町内の被害が少なかったことから，当初予定していたコースを廻ることができた。ただ，豪雨による影響で，出席率は他の回より若干低かった。

2　川の生き物観察会

８月１９日（日）に開催した川の生き物観察会についても，西日本豪雨の影響で川の生き物は少なくなっているのではないかと心配したが，２８種の生き物を観察できた。

◆今後の課題・発展の方向性

〇ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成は，単年度だけでは難しく，継続して実施する必要がある。

今回初めてブッポウソウの子育てに合わせた連続講座を開催したが，出席者から好評を得て，出席率も良かったことから，次年度以降も開催していきたい。

〇今回の講座を受講された方に対して，ブッポウソウに関する情報を定期的に発信するとともに，保護活動に協力の意向を示された方には，活動参加の機会をつくっていく。

〇2018 年（平成３０）年４月１日付けで三次市希少動植物保護条例が制定されたことから，三次市の環境保護政策との連携を密にし，三次市の鳥であるブッポウソウを市全体で保護する機運を醸成したい。

なお，2018 年三次市広報「三次」の６月号にめんがめ倶楽部の保護活動が紹介された。

〇川の生き物観察会についても，今後も継続して開催し，子どもたちに地域の川を大切する心を育み，身近にいる地域の生き物について学ぶ意欲を高めていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

〇ブッポウソウについて，３回に渡って学ぶ講座を初めて開催したが，非常に熱心に受講された。今後も継続して開催し，受講者に保護活動に関わってもらえる手ごたえを感じた。

〇ブッポウソウは，「雨月物語」などにも書かれていることを講師から教えてもらい，文学的視点で学ぶこともでき，改めて，ブッポウソウという鳥は興味が尽きないものであると感じた。

〇ブッポウソウ講座，川の生き物観察会については，中国新聞県北版に取り上げていただき，次年度に講座が開催されれば参加したいなど好意的な声を多くいただいた。

No.17 活動名：こどもから高齢者まで誰もが来られる地域の居場所づくり

# 矢野の家 わたしRASHISA

公益財団法人 マツダ財団 市民活動支援報告号

| | | |
|---|---|---|
| 団体名 | ： | 笑顔つながり隊（矢野の家） |
| 地域 | ： | 広島市安芸区 |
| 代表者 | ： | 上　郁子 |
| 支援金額 | ： | 45 万 |

私たちが、目指すもの！！
○子どもから高齢者までどなたでも来て頂ける、誰もがホッとでき安心できる第 3 の居場所づくり
○イベントや地域・こども食堂を通して人とつながるきっかけを創出し支え合える地域づくり
○「子どもたちの元気」と「高齢者の知恵と温かい手」多世代交流での相乗効果が生み出す地域の活性化

～活動概要～

### ◇オープンスペースとして開放
週 2 回（木曜・金曜）10：00～16：00
（来訪延べ約 2800 名）

### ◇健康に特化したお話会や体操
毎週木曜 14：00～16：00　（参加毎回 30 名程度）
※H30 年度広島市介護予防拠点とし、包括支援センターとの連携も行う

### ◇やの地域・こども食堂
毎月第 1・3 金曜日 16：00～19：00
学習支援・食事提供・遊びの居場所づくりの提供
（参加毎回 30 名程度）

### ◇矢野公民館にて出張やの食堂
8 月 17 日（参加 58 名）
夏野菜カレー・遊び・学習支援
12 月 16 日（参加 45 名）
『大かるた大会＆出張！やの食堂』
※公民館・子ども会育成連絡協議会との共催

### ◇学習支援無料塾やのジュク
9 月 6 日・9 日、10 月 24 日
11 月 21 日、12 月 19 日
（参加毎回 15 名程度）

### ◇地域多世代交流行事
6 月…梅シロップ作り（参加 10 名）
9 月…親子クッキング（参加 8 名）、お月見会（参加 18 名）
10 月…ハロウィンウォークラリー（参加 31 名）、絵本カフェ（参加 25 名）
1 月…託児付き料理教室（参加 9 名）

## ～実施に伴う効果～

多世代交流を行うことで、世代を超えてお互いに気づき合い思いやる関係性が出来た。
また、ここでの顔なじみが地域でも顔なじみとなり声を掛け合えるようになった。
子ども達が気軽に来訪し勉強したり、話をしたり、聞いてもらったり、安心できる居場所になっている。ここでの活動（学習や心のサポート）が、学校での子どもたちに変化をもたらしていると、先生から連絡を受ける。
高齢者が『地域・こども食堂』でのご飯作りや見守り・清掃活動を通して、支えられる側ではなく支える側として活躍している。また、引きこもっていた若者に子ども達への支援者となってもらったことで、社会参加の場となり、自分が出来ることを役割とし生き生きと活動している。
地域の居場所としての役割を担えてきていると共に、東区地域支え合い課や広島県教育委員会など外部からの見学や県民カレッジ、広島こども夢財団などで取り組み発表を行い社会への発信もできた。

## ～苦労した点～

◆昨年7月の豪雨災害の日が『やの地域・こども食堂』の開催日であったが、危機管理能力の甘さや情報不足により中止決定に至るまで、時間がかかり安全確保が遅れた。不特定多数の参加者であるため、開催中止の案内がブログでしかできないという問題が浮き彫りになり、予期せぬことが起こった場合、参加者・スタッフの安全を第一優先に考えるマニュアル作りを行うきっかけとなった。
◆地域・こども食堂の参加人数が増え、子どもの遊び・見守りに従事する大学生ボランティアや適任スタッフが不足している。
◆フードバンクを利用しているが、取りに行く時間や手間がかかることや、食材が限られることにより一時的に中止している。使いにくい食材は結果的にここでの食品ロスにつながってしまうという課題も見えてきた。

## ～今後の課題・発展の方向性～

◆活動が広がり参加者が増えてきたが、充実させるためには地域でのボランティアを確保し、「やりたい」を単なる手伝いではなく、担い手へと変えていき、キーマンとなるスタッフの養成が必要である。
◆今年度行っていた無料塾の内容は学習であったが、次年度は学習に限らず生活面での学び（お金の使い方・料理など）や山登りや社会見学を通し知識や経験を広げ、総合的な生きる力を身につける学びの場への展開を目指す

## ～活動を終えての感想・意見等～

この度マツダ財団様のご支援を頂き、新たな活動が出来、充実させることが出来ました。心から感謝申し上げます。
子ども達は異年齢での関わりから教え合い、助け合い、声を掛け合う姿が見られるようになってきました。大人が支えるだけでなく、子ども同士でのやりとりから中学生は自然に学習と遊びのボランティアに変化しています。
これからの地域を支える次世代の担い手へとつながっている楽しみな状況です。
地域での青少年育成につながり、また、全ての世代が相互に支え合える子どもから高齢者までの居場所になってきています。
今後も活動を継続していきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力お願いいたします。

| 活 動 名 | No.18 | 団 体 名 | 若者活動サポートセンターあおぞら |
|---|---|---|---|
| 被災の経験と教訓を通じて学ぶ<br>「若者の地域力スキル」育成講座 | | 地　　域 | 広島県広島市 |
| | | 代 表 者 | 共同代表　秦野英子・増谷郁子 |
| | | 支援金額 | 25万円 |

**活動概要**

【活動目的】

・安佐北区被災地等でのフィールド活動を通じて、若者の「地域力（コミュニケーション力）」を育成する

・被災の経験と現状、教訓を伝え、災害時により早く地域の復興支援をサポートする術を知る若者を育成する

【受講対象者】 10 代後半～20 代前半の若者

【受講者数】 28 名

【活動内容】

いつどこで、誰が災害に見舞われるかわからない時代になりました。災害などの非常時に最も大切なのは、地域で支え合い助け合える力＝「地域力（コミュニケーション力）」です。この地域力をもつ若者を育成するために、広島豪雨土砂災害時に力強い地域力を発揮して住民自らが復旧・復興の道を拓いた安佐北区を起点に、地域団体等の協力が得られた2つのフィールドで育成講座（事前レクチャーとフィールド学習）を行いました。なお、3月には、ご協力頂いた地域のみなさまとの交流会を実施します。

**◇フィールド１：　安佐北区の被災地域（大林、可部東、白木、狩留家）　16 名が参加。**

①「にじカフェ」（地域交流カフェ）の運営活動　6 回

被災者との交流を通じて、その経験と教訓および被災後のコミュニティ再生の方法を学びました。

＜被災者との交流レク（狩留家 8.30）＞

＜交流花畑づくり（可部東 10.21）＞

＜出前カフェ出店（三田 11.11）＞

②地域行事「明神祭（7.28）」、「復興支援コンサート（12.26）」への参画　2回

江戸時代から続く伝統のお祭りに出店し、日頃からの地域のつながりづくりと賑わいづくりへの取り組みを学びました。

また、被災者の心に寄り添う「復興支援コンサート」の運営にも携わり、ゆるやかなメンタル支援のあり方を学びました。

＜地域の方との事前企画会議＞

＜明神祭　当日の様子＞

＜明神祭　当日の様子＞

＜コンサートの様子＞

**◇フィールド２：　西区お茶会サロン（10 回）。　12 名が参加。**

「西区お茶会サロン」は、2014 年広島豪雨土砂災害の被災地域外避難者を対象に、ゆるやかなメンタル支援を目的として当団体が主催する交流会です。開催場所は、西区三篠町の東日本大震災ひろしま避難者の会アスチカの拠点「たねまく広場」を借り、ゲストによる音楽演奏や専門家による研修、お話会などを行いつつ、交流を続けています。このサロンで、広島土砂災害・東日本大震災、そして、8月からは西日本豪雨災害の被災者・避難者など住み慣れた場所を離れざるを得なかった方々との交流を通じて、災害の経験・教訓を学び、寄り添うために必要な姿勢を学びました。

・写真 上　：被災者さんとの交流
（視覚障がい者の被災と支援について学ぶ）
・写真 右上：当時のお話をうかがう
（安佐南区の被災者さんから）
・写真 右下：ストレスコーピング（臨床心理士を招いて）

◆実施に伴う効果
・若者が地域で支え合う様子に触れ被災時の状況などを直接聞くことで、「地域力」の大切さをリアルに感じ、自分の暮らしを振り返るきっかけとなっていました。
・コミュニケーションの基本となる「あいさつ」が、自然にできるようになりました。
・広島大学、広島文教女子大学、県立広島大学、広島文化学園大学など、様々な大学から学生が受講し交流することで、大学の枠を越えた若者同士の交流が生まれました。

◆苦労した点
・2018年7月の西日本豪雨災害で、安佐北区ならびに受講生たちが住む地域（東広島・呉・広島市）も被災しました。当団体の成り立ち経緯から、地域の土砂かきなどの急性期復興支援活動を優先したため、夏の間事業計画の実行が滞り、取り戻すのに時間を要した点
・被災した若者のメンタル支援を同時並行で行った点

◆今後の課題・発展の方向性
・2014 年から 4 年目の昨年夏、予想だにしていなかった２度目の被災が安佐北区を襲いました。交通網が寸断される中で、いかに地域で支え合えるか、その「地域力」が問われた災害だったと感じています。この経験を若者に「自助」「地域力」「近助（近くで助ける）」をより確実に伝えるため、経験に基づいた住民主体の災害ボランティアセンター運営研修、専門家と連携したメンタル支援研修などの取り組みを進めていきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等
若者の連絡手段の最上位がＳＮＳの時代に、「目を見て、あいさつをする」・「言葉を交わす」ことが大切であることを伝える難しさを改めて感じました。その一方で、いざ災害発災となると、率先して現場で汗を流す彼らの底力も感じた１年でした。この底力を平時（日常）でもあたり前に発揮できるように、これからも若者に伝え語りかけていきたいと考えています。

| 活 動 名 | No.19 | 団 体 名 | 府中町日本語教室ボランティアの会 |
|---|---|---|---|
| **日本語教室開催を通じた異文化交流と日常生活サポート** | | 地　　域 | 広島県安芸郡府中町 |
| | | 代 表 者 | 川島　義仁 |
| | | 支援金額 | １６万円 |

活動概要

・日本語教室

府中町国際交流協会事務所にて、火曜クラス　1.5 時間×1 グループ（7 月～１２月）

府中町商工センターにて　日曜クラス　1.5 時間を開催（常時）

・異文化交流会

府中町国際交流協会員共済で、府中町公民館でポットラックパーティーを開催し、各国の料理に触れるとともに日本文化を紹介するイベントを実施しました。年末にはクリスマス会を開催し、日本語教室の生徒や家族や友人に多数参加いただき、大いに盛り上がりました。（参加者約 50 名）

・フィールドトリップ

江田島でのいちご狩り、平和公園周辺散策、宮島弥山登山、岩国散策を行い、生徒を連れていきたいと思っていた場所に一緒に行けてとてもよかったです。今後もいろいろな場所へ連れて行って、日本をもっと好きになってもらえるとうれしいです。（参加者合計約７０名）

・日常生活サポート

2018 年は豪雨災害が発生したので、会員の所在確認などに生徒との連携が生かされました。幸いに実際には被災された生徒はなく、サポートが必要なケースは特に発生しませんでした。しかし、今後も生徒さんやご家族をサポートできるように、していきたいと思います。

いちご狩り

平和公園散策

宮島弥山登山

クリスマス会

◆実施に伴う効果

日本語教室以外のイベントは、生徒の家族や友人も参加可能なので、日本語教室での楽しい雰囲気を家族や友人たちへ伝えられ、先生、生徒、友人とのコミュニティ構築に役立っています。また、日本での楽しい思い出作りによって、日本に対する良い印象を持っていただけていると思います。

日本語教室は主に、外国人の方が日常生活で困らない程度のサポートができればと思っておりましたが、生徒の要望で、さらに上のレベルの日本語試験合格を目指したいという意見がありました。本補助金により各種教科書など教育教材も充実させることができました。

◆苦労した点

2018年は豪雨災害が発生し、先生も毎週のように復興災害ボランティアへも参加したりして、日本語教室でのフィールドトリップを企画するという雰囲気には、なかなかなれませんでした。そんな中、やっと落ち着いてきた９月に平和公園周辺散策を企画したのですが、再びの台風襲来により延期となってしまいました。本当に豪雨に泣かされた年でしたが、気を取り直して10月に平和公園周辺散策は開催することができました。

宮島弥山登山でも、登山道には多くの豪雨災害の爪痕が見られました。そんな険しい登山にも関わらず、マイペースの行動をする生徒さんたちを安全にリードするのは、なかなか大変なことで、ボランティアの先生方のチームワークにより何とか乗り越えられることができました。かなり険しい山道だったにも関わらず、またぜひ登りたいという意見もあって、苦労が報われる気持ちになりました。

◆今後の課題・発展の方向性

日本語教室自体の生徒数が伸び悩んでいるのが実情です。以前は工場の研修生が多く出席されていましたが、最近は研修生がほとんど出席されなくなりました。要因としては、日本語教室のある日曜日に仕事があるという研修生も多く、生徒の都合の良い日時と開催日時にずれがあるようです。しかし、無料で実施するためには無料で使用できる場所確保や先生自身の都合もあるため、そういった生徒への対応が今は難しいというのが実情です。

今後は日本語教室に参加されなくなったとしても、日常生活サポートがいつでもできるように、生徒との LINE のグループチャットを活用し、今後も連絡取り合えるようにし、いつでも生徒の力になれるようにしたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

貴財団の補助金により、生徒を色々な場所に連れていけることができました。生徒もとても喜んでおりましたが、ボランティアの先生自身もとても楽しく過ごすことができました。また、高額な教科書の購入をすることもでき、教育教材の充実もできました。今後はさらに生徒の要望に沿った教育もできると思います。

こんなにも充実した活動にできたことは、貴財団の支援なくしてはありえませんでした。本当にご支援ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.20 | 団 体 名 | ママの働き方応援隊 広島東校 |
|---|---|---|---|
| **教えて！赤ちゃん先生** | | 地　　域 | 広島県西部 |
| **～わたしもあなたも大事な命～** | | 代 表 者 | 高田 裕美 |
| | | 支援金額 | 25 万円 |

活動概要

いじめ予防や自殺予防を目的とし、小中学生などに対して実際に赤ちゃんと触れ合い、赤ちゃんの母親から生まれたときの話などを聞く授業プログラム「赤ちゃん先生クラス」を定期的・継続的に提供します。

各授業においては赤ちゃんが先生（＝赤ちゃん先生）であり、母親は赤ちゃんの持つ共感力を引き出す役割（＝ママ講師）を担うのが特徴である。授業では小中学生に 10 人ほどの輪になってもらい、その輪の中に赤ちゃん先生とママ講師が 1 組ずつ入り、赤ちゃんを抱っこしたり一緒に手遊びをするなどのふれあい体験や、毎回テーマを決めてのグループトークを行います。

学校や施設のニーズにより、適切なプログラムを提案し、提供します。

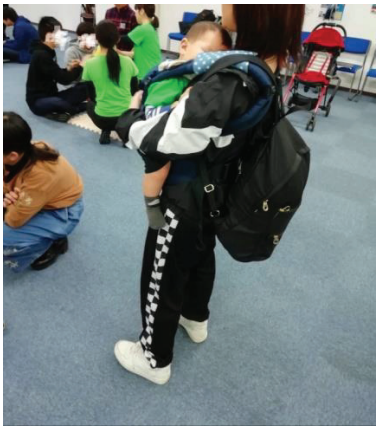
《実施概要》

・竹原市立賀茂川中学校（全 4 回 ・ 中学 2 年生 31 名）…9/26、11/7、1/16、2/27
・熊野町立熊野東中学校（全 2 回 ・ 中学 3 年生 128 名）…10/10（同日に第 1 回、第 2 回を開催）
・KTC おおぞら高等学院　広島キャンパス（全 3 回 ・ 高校生 12 名）・・・3/4、3/6、3/14
・江田島市三高児童クラブ（全 1 回 ・ 小学生 15 名）・・・3/26

賀茂川中学校にて。育児体験。

熊野東中学校にて。読み聞かせ体験。

KTC おおぞら高等学院にて。重さはどのくらい？



KTC おおぞら高等学院にて。抱っこひもでぐっすり。

◆実施に伴う効果

竹原市の賀茂川中学校、安芸郡熊野町の熊野東中学校におかれましては、2018年7月に起こった豪雨による被害にあわれた生徒さんがいらっしゃる中での開催でした。学校中に不安と悲しみが広がる中、「だからこそあえて今、赤ちゃん先生を開催してほしい」という強いご要望をいただいて導入につながりました。開催当日、赤ちゃん先生の入場シーンで生徒さんたちの顔がふわっと明るくなったことが心に残っています。

生徒さんが10年後の赤ちゃん先生に書いてくれた手紙も印象的でした。いずれも用紙いっぱいの分量で、自身の現状を踏まえながら「困ったときは誰かに相談してね」、「学校での勉強、こんなところに気を付けたらいいよ」など具体的に気持ちを込めて書いてくれていました。

実施校の先生方からは次のような声をいただきました。

・(生徒が)事前に先輩から話を聞いていたようで、本当に楽しみにしていたのが分かった。
・例年以上の盛り上がりだったのが印象的。普段少し気になる生徒が積極的だったことに驚き。
・妊娠中のママ講師がいたことも印象的だった。元気な赤ちゃんが生まれてくることを生徒たちも願っていると思う。
・母親の妊娠・出産体験談が生徒には印象的だった様子。嬉しくて幸せな事だけではないということに気付き、苦労の先に喜びがあることを学んでいた

◆苦労した点

当方は安全に効果的にプログラムを提供するため、生徒数にあわせて講師を増やしております。ご要望をいただいても生徒数が多すぎて予算が莫大になってしまったり、条件が合う講師が足りずに実施することができなかったりと、課題やニーズがあっても実施条件がなかなか合致しないことに大変苦労しました。

◆今後の課題・発展の方向性

当方の事業は無償のボランティアではなく、あえて有料のプログラムとして提供しています。これは、講師のクオリティやプログラムの効果・安全性の確保により開催先の課題解決をしっかりと目指すだけでなく、孤立しがちな母親たちの自信や役立ち感の創出、仕事か子育てか二者択一の時代を終わらせる働き方革命、当事者だけで終わらせずさまざまなステークホルダーを課題解決に巻き込める等のさまざまな理由やメリットがあります。

しかしながら、事業を安易にボランティアやさらに低価格でマネをする、行政が無償で同様の事業を学校へ提供する等の動きが出てきています。ただふれあうだけで終わらない、当団体だからこそお願いしたい、安心して依頼できるという開催先もいらっしゃる反面、今後は類似団体や事業を活用する学校も出てくるのではないかと予想しております。

当方は女子少年院や、不登校の子どもたちを対象とした開催実績があります。今後はさまざまな事情や背景の子どもたち等、意識もスキルも高い母親達でなければ実施が難しい開催へと力を注ぎ、他の類似事業との差別化を図っていきたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度が助成の最終年度です。これまで 3 年に渡りご支援いただき、誠にありがとうございました。マツダ財団様より助成をいただいたことは、参画する母親たちにとって誇りとなり自信につながっていました。

助成金がなくなった途端に実施できなくなる活動では、地域課題を解決していくことはできませんので、初年度より将来的には助成がなくても継続して実施していけるように、開催にかかる費用をできるだけ開催先にもご用意いただけるよう粘り強く交渉を続け、どうしても足りない部分を助成から充当させていただくなど 3 年をかけて少しずつ移行させていきました。

おかげさまで「無料なら導入する」ではなく「お金を払ってでも導入する価値がある」と感じていただくことができ、独自に予算を確保してのご依頼が増えてきました。

ひきつづき予算確保には苦慮しつづけていくとは思いますが、助成いただいたことで種まきはしっかりさせていただけたと考えておりますので、勢いを弱めることなく活動を広げて行きたいと考えています。

| 活 動 名 | No.21 | 団 体 名 | AGAin＆原小 AGAin |
|---|---|---|---|
| **まちづくりイベント** | | 地　　域 | 呉 |
| | | 代 表 者 | 小野結実 |
| **―みんなで盛り上が（AGA）ろう！－** | | 支援金額 | ３５万円 |

活動概要

阿賀のまちの人の絆やふるさとへの愛着を深めるため，地域（阿賀まちづくり協議会若者提案事業）とともに町を盛り上げる取組を行った。

（１）三ツ池ふれあい交流会

〇日時・場所 ： 平成３１年１月 23 日（水）・呉市立原小学校体育館

〇内容　：　地域のニュースを新聞とクイズ（児童がプログラミング）で発信
地域の防災情報を，３Ｄマップを使ってプレゼン（防災手帳の配付について予告）
日頃の感謝を込めておもてなし（MBot で遊ぶコーナー，お茶のおもてなしコーナー）

〇参加者　：　地域２７名，保護者４０名，児童１２３名

（２）「阿賀の疑問 Q&A」お披露目会

〇日時・場所 ： 平成３１年１月２０日（日）・呉工業高等専門学校体育館

〇内容　：　冊子「阿賀の疑問 Q&A」発行に関わって趣旨説明
冊子「阿賀の疑問 Q&A」の内容を一部紹介
出店（うどん，カフェ，焼き芋）

〇参加者　：　地域５２名，AGAin（阿賀まちづくり協議会若者提案事業）のメンバー１０名，
原小学校６年生１６名

３Ｄマップを使って地域の防災情報を説明

Again のメンバーと活動打ち合わせ

「阿賀の疑問 Q&A」についてポスターセッション

Again のメンバーとうどん等の出店準備

◆実施に伴う効果

○　地域の防災情報を発信したことについて，参加した地域の方から，「自分の住んでいるところは災害の危険性が高いことが分かった。」「防災について考えるようになった。」等の感想が寄せられた。また，３月中旬に本小学校区の全世帯に配付する防災手帳を早く見たいという声もあった。

○　平成２７年度から，AGAinのメンバーと共にまちづくりイベントを開催していることを受け，毎年楽しみだという地域の人が増えている。

◆苦労した点

○　参加者の確保

少しでも多くの地域の方に参加していただけるよう，地域で毎年開催されている「阿賀地区ロードレース大会」終了後，同一会場で，本イベントを設定した。しかし，当日，雨天で大会が中止となったため，参加者が見込みを大きく下回った。参加者の確保に当たっては，日程と会場が大きな鍵になる。

◆今後の課題・発展の方向性

○　引き続き，地域がどのようなまちづくりを求めているかリサーチし，阿賀のまちの人の絆やふるさとへの愛着を深めることのできる，まちづくりイベント等の取組を進める。

◆活動を終えての感想・意見等

小学生だけでなく，地域の若者や呉工業高等専門学校の学生さんとともに活動することで，活動の対象が広がり，達成感も大きくなりました。また，予算がついたことでイベントや成果物も充実したものになり，阿賀のまちを盛り上げるという目的に向け，微力ですが力になったのではないかと思います。来年度は，取組を工夫し，もっともっと参加者が増えるよう頑張ります。

| 活 動 名 | No.22 | 団 体 名 | 「くまげの美術室」実行委員会 |
|---|---|---|---|
| **「くまげの美術室」設置事業** | | 地　　域 | 山口県周南市 |
| | | 代 表 者 | 中 川　　郁 |
| | | 支援金額 | ２５万円 |

活動概要

・平成２９年８月から平成３０年４月にかけて、「くまげの美術室」実行委員会を立ち上げ、準備に向けた会議を月２回程度、合計２０回以上開催した。

・平成３０年１月に、実行委員である設計士による余裕教室の内装改築の設計を行った。

・平成３０年３月に、展示壁面の工事として、内装改築工事を行った。地元業者に依頼して、木工事、壁紙の貼付、電気工事を行い、タイルカーペット貼りやその他装飾を実行委員や生徒の手で行った。貴団体からの助成金を本内装工事の一部に充てさせていただいた。

・平成３０年４月に、第１回企画展「河村純一郎展」のチラシを作成・配付し、５月１日に「くまげの美術室」がオープンした。

・平成３０年９月に、貴重な美術資料を守るため、機械警備会社と契約して夜間のセキュリティを確保した。

内装工事（木工事）

入り口看板の制作

第１回企画展（一般来場者）

常設展（熊毛中学校生徒）

◆実施に伴う効果

・５月１日から１３日の第１回企画展において、来場者数は一般のべ５８３人、生徒のべ３００人、合計８８３人となった。その後、常設展４回や第２回企画展「徳原望展」を開催し、平成３１年１月までの来場者数は、一般のべ１，２６４人、生徒のべ１，８６０人、合計３，１２４人となった。

・「くまげの美術室」オープンにあたって、熊毛中学校芸術部生徒に設置事業から展示の準備等のあらゆる作業に参画させることにより、子どもたちの心の成長に大いにつながっている。

・「くまげの美術室」を学校施設を利活用した地域の美術館として位置づけ、日常的に地域住民が中学校に来校できる環境を整えることができ、地域住民と中学生の交流がより深まってきた。

◆苦労した点

・「くまげの美術室」設置に伴い、改装工事費として、地域の寄付や募金などでの資金面の調達に大変苦慮した。

・限られた資金で設置するため、実行委員自らできることは率先して行い、熊毛中学校部活動芸術部の生徒も手伝い、改装工事を完成させた。

・「くまげの美術室」開設にあたって、地域住民を始め広く周知するため、様々な会合や展覧会でチラシを配付したり、店舗や公共機関にポスターを掲示したりした。

◆今後の課題・発展の方向性

・今後の課題としては、多湿や極端な温度変化を嫌う美術資料を保管するためのエアコン設置が必要であるが、未だ予算の見通しが立たない。

・今後の発展の方向性としては、運営資金を充実させ、より質の高い美術資料を展示し、地域の中学生の心の成長をはぐくむととに、地域住民の憩いの場となるよう、「くまげの美術室」実行委員会で協議を重ね、継続維持し、発展させていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

「くまげの美術室」設置にあたり、２０回以上の実行委員会を開催し、受付業務ボランティアの確保、企画展・常設展の企画・準備、寄付金の依頼や募金活動など、様々な苦労があったが、貴団体からの支援を受けて何とかオープンすることができた。

「くまげの美術室」の扉を開けると、そこには異空間の展示室があり、予想以上にいい物ができたこと、また、地域の方々の期待の大きさを強く感じた。

現在、オープンして８ヶ月が経過しているが、この間、企画展を２回、常設展を４回行い、多くの来場者があり、地域のコミュニティ・ルームへとなり、今後、さらに発展していくことが期待できる。これもひとえに、貴団体からのご支援の賜と、「くまげの美術室」実行委員会一堂、喜びに堪えません。感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## NO.23　活動名：「温故知新プロジェクト」

活動概要

**若い力で私達の街を国際学園都市に発展させよう！**

**（地域の高校生達若者と共にチャレンジ）**

| 団体名 | NPO法人　ワン・フォー・オール |
|---|---|
| 地域 | 山口県西部（宇部市） |
| 代表者 | 河野邦彦（理事長） |
| 支援金額 | 45万円 |

**山口県：留学生比率高い**
112人/10万人当たり（全国8位）

**留学生**
・地元と交流したい
・四季を感じたい
・情報発信したい

**高校生等**
・国際交流したい
・留学したい
・海外で仕事を・・・

**温故**

耕作放棄地
古民家
↓
再生

**若手リーダー育成**
**新国際学園都市形成**

**知新**

外国人
在住者増加
↓
国際交流

活動写真

古民家　活用

着付け・素麺流し・スイカ割
色々やりました

若手リーダー達
（中心は高校生）

山口ゆめ花博
国際交流イベント

日本チーム
書道パフォーマンス

## 実施内容

| 活動テーマ | 開催時期 | 場所・内容　（＊全て子供達参画） | 交流人口 |
|---|---|---|---|
| 1）古民家の整備 | 通期 | 場所：主に宇部市内５軒程度<br>＊古民家の保善、補修、花壇の整備　⇒活動拠点 | ２００ |
| 2）耕作放棄地の再生 | 通期 | 場所：主に宇部市内　1,500㎡程度<br>＊耕作放棄地整備、畑に再生・野菜栽培。 | ２００ |
| 3）イベント | | 新感覚　“Glocal Journey”<br>国際的視点で課題を捉え地元で活動する<br>（企画・立案・実行は若手リーダー達） | |
| ①　古民家交流会 | ４８回/年 | 場所：主に宇部市内の古民家<br>＊留学生と国際交流に関心のある若者達との交流会。 | ４００ |
| ②　世界と遊ぼう | ６回/年 | 場所：主に宇部市内　学校・中山間地区<br>＊各国の歴史、文化、遊びの紹介。<br>＊スポーツ教室 | １,０００ |
| ③　山口ゆめ花博 | ５回/年<br>（期間中） | 場所：山口きらら博記念公園（9/14～11/4）<br>＊明治150年プロジェクトの中核イベントにて<br>「世界と遊ぼう」を中心とした国際交流会実施。 | ２,０００<br>計（人）<br>３,８００ |
| 4）・異文化交流心理面の調査研究<br>・リーダー育成 | 6回/年 | 場所：主に宇部市内<br>＊山口大学中野助教によるモニタリング。<br>本活動参加者の異文化交流における<br>ストレス等心理状況調査等。 | |

## 成果・課題

**成果①**

・若手国際交流リーダー育成の先鞭
・周囲の関心の高まり

**成果②**

・マツダ財団様助成金活用
AC、PC等活動拠点の整備に使用　⇒活動が更に活発に

| 若手リーダー | 人数 |
|---|---|
| 高校（４校） | 12 |
| 高専（１校） | 8 |
| 大学（２校） | 10 |
| 合計 | 30 |

| 参加留学生：国名 | 人数 |
|---|---|
| 韓国 | 3 |
| 中国 | 5 |
| 台湾 | 15 |
| インド | 1 |
| インドネシア | 10 |
| マレーシア | 12 |
| シンガポール | 3 |
| バングラディシュ | 3 |
| アフガニスタン | 3 |
| モンゴル | 1 |
| ラオス | 2 |
| カンボジア | 2 |
| ベトナム | 6 |
| ミャンマー | 1 |
| イラン | 1 |
| 英国 | 1 |
| ドイツ | 1 |
| スペイン | 1 |
| ウクライナ | 1 |
| グアテマラ | 1 |
| アメリカ | 3 |
| カナダ | 2 |
| 合計 | 78 |

| マスコミ取材 |
|---|
| NHK山口放送局 |
| インドネシアNET局 |
| AbemaTV |
| 宇部日報社 |

若手リーダー
**意見・感想**
留学生

・外国の方と初めての共同作業は達成感があった（高3女）
・将来は海外で仕事を、の思いが高まった（高3男）
・引っ込み思案の自分に自信がついた（高2男）
・イベントの実施以上に準備の重要性を感じた（高2女）
・学校には無い貴重な体験が出来た（高1女）

・山口県で自国紹介出来て嬉しい（韓国女）
・日本の高校生が積極的なことに驚いた（インドネシア男）
・高校生と一緒に活動できて充実感がある（マレーシア女）
・家族も一緒に楽しめて良い（ベトナム男）

若手リーダー
**苦労した点・課題**
留学生

・メンバーの確保
モチベーションの個人差
・スケジュール管理
学業、部活、塾との両立
・保護者、学校の理解
学業への影響心配

・宗教戒律の規制
モスリムの方が多い
食事、お祈りの時間
女性との接し方に要注意
・スケジュール管理
学業、アルバイトとの調整
・家族の参加
幼児も参加させたい

**発展の方向性**
（本事業は3年計画の1期目）

・3年計画で国際交流若手リーダーの育成に取り組む。2期目は1期目をベースにリーダーの育成に更に注力する。
・異文化交流ストレス耐性調査の中間レポートを2期目に行う。
・課題に掲げた点を精査保護者、学校の理解宗教上の制約等に対して着実な対応を取り計画を進捗させる。
・マツダ財団様助成金活用タブレット端末、ディスプレイ等、ネット環境を整備して活動を推進したい。

## No.24　～謎を解いてお宝ゲット！～　　お天気×ぼうさい　宝さがしゲーム

実施日：9/22、10/13、10/20、11/3　（山口ゆめ花博参加）

（団体名）
**空みずきの会**
（地　域）
山口県山口市
（代表者）
坂本京子
（支援金額）
４０万円

活動概要

＜事前活動＞
５月～９月　空みずきの会の会合４回、宝箱づくりなど、集まって作業２回
９月１６日　会場で、事務局の立会いのもと、宝箱の設置場所を確認。

＜実施内容＞
①テント内に基地の準備
（「お天気×ぼうさい宝さがしゲーム」の
看板をテントの上に２ヶ所、
空みずきの会のぼり旗２ヶ所、
お揃いの法被着用で目立つように工夫。）
宝箱６つ（ダミー一つを含む）を
会場内に設置（隠す）
②希望者に宝の地図を配布
（４日間で１，３００枚配布しました）
③配布した参加者にゲームの流れを説明
（宝箱の写真、
キーワードを探すプレートなどを
それぞれが持って説明をしました。
④定期的に宝箱周辺を巡回
（問題に悩んでいる人にヒント、
宝箱が壊れていないか確認）
⑤基地に戻ってきた参加者に、
キーワードのチェック
（正解なら印鑑を押す、
間違っていたら問題を書いた紙を
見せて一緒に考える。）
⑥大きな宝箱の中から
プレゼントを一つ選んでもらう

効果

あらゆる世代が無理なく参加できるということ、タイムトライアルではなく、時間内に戻ってくれば、全員にプレゼントがあるという時間の幅を持たせたことで、小学生のグループ、ベビーカーを押しているお母さんから年配のグループや車椅子の方まで幅広く参加できました。宝のありかを探すという使命を、家族や友達、カップルで連携をとりながらクリアしていくワクワク感も企画の成功でした。問題を、初級者向けと上級者向けと二つ選択できたことから、日頃はお天気に興味のない人も気負わず参加でき、家族やグループで天気や防災について考えるきっかけができたと思います。宝の地図を持って戻ってくる方はみんな笑顔で、ちょっと得意気でした。（笑）。

苦労

ゆめ花博の会場自体が開催に向けて工事をしていたので、情報の詳細がギリギリまでわからなかったことです。宝の地図のイラストがなかなか完成できなかったり、宝箱の設置場所はゆめ花博が始まってから主催者側と交渉しなくてはいけないなどヤキモキしました。また１回目は 200 枚の宝の地図がわずか 40 分でなくなってしまい、２回目以降は 400 枚に増やしても１時間以内に配布が終わり、そのお知らせの仕方や配布の時間割など、２回目、３回目、４回目といろいろ工夫をしながらやり方をかえていきました。

今後の課題・発展の方向性

お天気や防災の講座で一番参加が難しいのが、若い世代です。イベント性を持たせることで、小さな子供や若いお父さんお母さんにもアプローチできるという手ごたえを感じました。企画から運営までを総合的に行うノウハウを、今後はそのまま他のイベントの場で提供することができます。防災は難しいものだと思われがちですが、このようにゲーム性をもたせることで楽しみながら学ぶ活動を今後も展開させ、活動の幅をさらに広げることができると期待します。

感想・意見

何から何まで初めてのチャレンジでしたが、盛況に終わりホッとしています。なるべく易しいお天気や防災に関する問題（なぞなぞ）にしたつもりでしたが、一般の方はお天気のことをあまり知らないということを再認識しました。もっともっと天気に興味をもってもらえる活動をしたい！そのためにも、ゲーム性を持たせたり楽しく学んでもらうことの大切さも感じました。これまで防災講座はやっていましたが、イベントの企画運営は初めの試みでした。企画段階からしっかりと内容を練って準備をしたことが、当日の運営に活きました。防災が目的で集まったイベントではないにも関わらず、多くの方が参加してくれたのは、周遊のゲーム性をもたせたことが良かったのだと思います。屋外の広大な会場を使うことも心配でしたが、事前にしっかりと事務局の方と打合せができたので、事故もなく無事に進行できました。
公益財団法人マツダ財団様には心から感謝致します。

| 活 動 名 | No.25 | 団 体 名 | いきりこ保存会 |
|---|---|---|---|
| い き り こ | | 地　　域 | 山口県岩国市玖珂町 |
| | | 代 表 者 | 山本　茂雄 |
| | | 支援金額 | １５万円 |

活動概要

岩国市玖珂町は古代の玖珂郡の郡衛(郡役所)として栄えて以来１３世紀にわたる由緒ある歴史の街です。江戸時代には山陽街道筋の代官所の存在する街として参勤交代の大名が往来し、これに欠かせないのが大名行列でした。明治時代に、この行列を模して天神祭りの加勢として子供たちによる「いきりこ」がおこり、中断するも戦後復興し現在まで続いています。

毎年秋に催される鞍掛城まつりにおいて、いきりこ行列は JR 岩徳線玖珂駅前から商店街をぬけ、祭りのメイン会場である玖珂こどもの館まで、拍子木“カチカチ”の音に合わせて練り歩きます。「いきりこ」は、練習で覚えた「えいやーなー・・・」の掛け声や独特な脚裁きを披露して行列の雰囲気を盛り上げます。

沿道の観客は元気でかわいい「いきりこ」に、江戸時代の山陽道の参勤交代の行列風景に思いを馳せ玖珂町の歴史を再認識します。

＜　本　番　＞　平成 30 年 11 月 18 日(日)鞍掛城まつりにて、いきりこ(こども大名行列)を披露

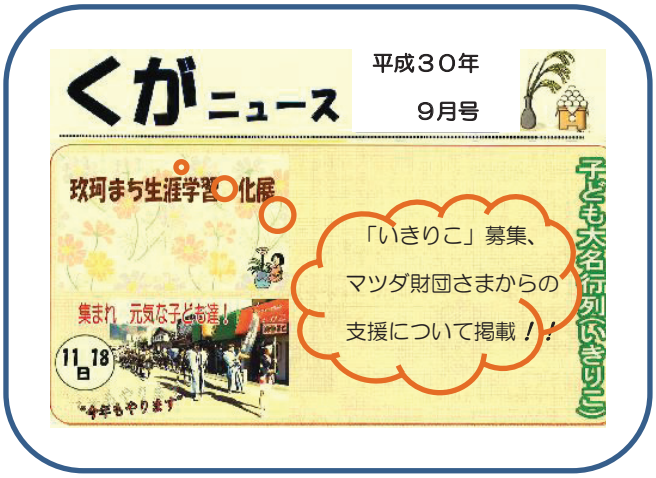
＜参加者募集＞　いきりこ、姫、籠かき(9 月中旬、玖珂小・中学校を通じて生徒全員を対象に募集)
大名は、小中校長先生、玖珂町文化協会会長など大人６名程が務めます。

＜いきりこ練習＞11 月上旬に、６回、各１時間程度練習
放課後玖珂小学校グランドにて、いきりこ保存会指導のもと、拍子木“カチカチ”に合わせ掛け声や足さばき、毛槍、弓矢、大箱などの受け渡し方の練習をします。

玖珂町商店街を「いきりこ」が練り歩く

鞍掛城まつりのメイン会場に到着

新しくなったいきりこ保存会の「のぼり」




町内公共施設へ掲示　＆　各家庭に回覧

◆実施に伴う効果

1．由緒ある歴史の街玖珂町の伝統文化「いきりこ」の継承を通し、玖珂地域の未来を担う子ども達の健やかな心を育みました。

2．あらゆる年代の人々が「いきりこ」に触れて、江戸時代の山陽道の風景に思いをはせ、玖珂町の伝統ある歴史に親しみと誇りを抱き、「愛されるふるさと」「ゆとりあるまちづくり」をめざして、住みやすい街づくりに貢献しました。

◆苦労した点

◎「いきりこ」参加者の確保

小中学生の人数が減っていることに加え、放課後に塾（勉強・スポーツ）通いをする子どもが多く、徐々に参加する子どもが減っています。

対策

① 放課後に行なっている「いきりこ」練習の曜日を分散させて参加可能日を捻出しました。

② スポーツ少年クラブにクラブ単位での参加を要請し、秋期スポーツ大会と重ならない限り快く協力していただきました。

③ いきりこ募集時期に合わせて公民館広報誌“くがニュース”に「いきりこ」について宣伝し参加を呼びかけました。

（マツダ財団様のご支援でのぼりや提灯などを新調したことも掲載しました。）

※“くがニュース”は、公民館や総合センターなどの公共施設へ掲示、及び各家庭に回覧されます。

◆今後の課題・発展の方向性

1、少子高齢化が進むなか、参加するこども達の確保が重要な課題になっています。

上記（苦労した点）のような対策を実施しつつ、都度、新たな対策を模索していきます。

又、学校/地域ボランティアの協力会議において、来年度に向けて学校側のより一層の協力を要望する予定です。

2、いきりこ保存会としても継続・発展の為に若い世代の指導者の参加を働きかけ、メンバーの若返りを図ります。

◆活動を終えての感想・意見等

・晴天に恵まれ、今年も元気な「いきりこ」の披露ができました。朝早くから化粧や着付けの為に集合した参加者はもとより、ボランティアの方々の献身的な手伝いに支えられました。これは、玖珂に住む人々の玖珂の歴史に対する尊敬の念と愛着から成り立つものです。

・私たち「いきりこ保存会」は、この豊かで誇り高い玖珂町民の精神性を後世に引き継ぎ「ゆとりあるまちづくり」に貢献し「愛されるふるさと」を形成するために結成しました。昨今、種々の困難な問題もあり「いきりこ」の保存も容易ではありませんが、この度、財団法人マツダ財団様のご支援により、「いきりこ保存会」ののぼりや提灯などを一新することが出来、今後の励みとして大きな後押しを頂きました。末永く大切に活用してまいりたいと思います。

・玖珂町民を代表して「いきりこ保存会」会長よりお礼を申し上げますとともに財団法人マツダ財団様のご活躍と発展を心より祈念しております。この度はまことにありがとうございました。

| 活 動 名 | No.26 | 団 体 名 | machi-mori |
|---|---|---|---|
| **ぼくらはまちのプロデューサー** | | 地　　域 | 山口県周南市三丘地域 |
| | | 代 表 者 | 長畠　麻欣子 |
| | | 支援金額 | 25 万円 |

活動概要

山口県周南市三丘地域における地域ぐるみの青少年育成促進の取り組みとして、地域の小学校を舞台にした縁日・学校映画祭の実施とともに、子どもによる駄菓子屋運営に取り組んだ。

子ども縁日・学校映画祭を、10 月 14 日に周南市立三丘小学校の講堂や校庭を借りて実施した。三丘小学校児童から有志を募り、6 名の児童が子どもスタッフとして映画祭の企画・運営を行った。映画祭はどの世代も楽しめるように、また三丘に縁のあるものを取り入れたいとの気持ちから、2 部構成とした。

第 1 部では子ども向けに「ミニオンズ」を、第 2 部では三丘出身の酒井充子映画監督をお招きし、ドキュメンタリー映画「台湾萬歳」の上映とトークショーを行った。映画の選定、宣伝用のポスター作製、会場準備・設営など、児童が中心となっておこない、「ミニオンズ」では司会進行も含め児童の手ですべてを考えて実施した。第 2 部では、小さなお子様連れの方がゆっくり鑑賞できるようにと、児童の発案で「託児コーナー」も用意し、訪れる子どもの対応も大人の見守りのなかで、児童が行った。第 1 部は子どもを中心に 30 名程度の参加、第 2 部では 50 枚用意した予約券が足りなくなり、60 名を超える方に鑑賞いただいた。また地域内の様々な団体の協力を得て、映画上映前後に来場者がくつろいで交流できる飲食スペースも用意し、盛況であった。

子ども駄菓子屋については、8 月に地域に開店したコミュニティカフェで定期的に子ども駄菓子屋を運営することとし、3 月 23 日の開店へ向けて準備を進めている。駄菓子問屋からの仕入や値付け、商品の陳列、宣伝、販売、お金の管理など、児童にとっては初めての経験となることが多く、何度も話し合いを重ね準備をしている。子ども駄菓子屋オープンに先立ち、三丘小学校バザーにてブースを借り一日駄菓子屋をオープンした。実際に顧客の反応を見ることで、3 月のオープンへ向けて良い学びの機会となった。

子どもスタッフ作成　映画祭ポスター

三丘出身酒井監督によるトークショー

子ども映画祭上映風景

一日子ども駄菓子屋オープン

◆実施に伴う効果

- 縁日・映画祭には地域内外から予想以上の参加者が集まり、地域の子どもたちと様々な世代の大人の良い交流の場となった。また、会場を地域の小学校にしたことにより、多くの方が地域の学校へ足を運び、学校を地域の中心と据える試みの一助となった。三丘地域外から来場された方も多く、三丘での移住促進活動・地域ぐるみの子育て活動の良い宣伝の場ともなった。
- 映画祭の企画・運営を行った児童は、仲間たちと意見を戦わせながら真剣にイベントの企画に取り組んだ。限られた準備期間の中での優先順位のつけ方、タスクの進行状況管理、意見が食い違った際の解決の仕方等、多くの学びがあった。観客席の作り方も、いす席だけではなく、子どもたちが床に座ったり寝転がったり自由に観ることができるようにと工夫した。また、小さな子供連れのお母さんのために子どもの遊び場も用意するなど、お客さんの立場にたっての発想ができるようになったことは子どもの成長につながった。
- 子ども駄菓子屋に参加している児童は、駄菓子屋開店準備活動の中で、地域の経済活動についての知識を身につけるとともに、自主的に物事を進めていくことを学んだ。駄菓子屋の視察や駄菓子問屋の訪問を通し、値付けのルールや収益をあげるための工夫、マーケティングの方法について研究した。普段買い物をしている店で、集客や収益をあげるために様々な苦労をしている事を学んだことで、身の回りの経済活動に対する関心が広がった。

◆苦労した点

- 映画上映の経験がなかったため、会場設営・音響・映画の手配の方法など、分からないことが多かったが、三丘小学校を始め多くの団体の力をかり実施にこぎつけることができた。
- 参加児童が全員集まれる機会は限られていたため、児童の話し合いや準備作業時間の確保に苦労した。学校の休み時間を利用したり、担当を決めて分担したりと、参加児童が主体的に話し合いを進める努力をしたのはとても良かった。

◆今後の課題・発展の方向性

- 3 月 23 日以降、地域内のコミュニティカフェを利用し、定期的に子ども駄菓子屋を運営していく。現在参加している児童の多くが新六年生のため、来年度以降継続していくためには新たに下級生の参加を募る必要がある。当プログラムへ参加することの魅力を、他の児童や保護者へ積極的に伝えていくことが課題となる。
- 今回の活動を通し、子どもが地域の中で主体的な活動を行っていくことの効果を実感した。参加児童からも、今後も地域活動に取り組みたいと前向きなコメントが多く寄せられた。今後さらに活動を広げるため、山口県ぶちCON へ応募し「三丘子どもまちづくり塾」として活動を展開させることとした。「三丘子どもまちづくり塾」の中では、今回実施できなかった地域をより深く学ぶ活動を取り入れると共に、子どもが自分たちの力でまちを変えていく企画を立て実現する活動を応援したい。また、子ども駄菓子屋の場ともなるコミュニティカフェを、子どもの学びの場また世代をこえた地域の交流拠点として利用できるよう、子どもの意見を取り入れながら改修を進めている。

◆活動を終えての感想・意見等

縁日・映画祭の実現には多くの苦労もあったが、スタッフとして参加した児童が成長していく姿を見ることができたのは何よりの喜びであった。地域の中で地域に貢献できたという達成感を味わうことができたことは、参加児童にとって大きな経験であったと思う。このような経験を重ねた児童が、将来、地域を担うリーダーとして成長してくれることを願っている。

今回の活動を可能にしてくれたマツダ財団からの支援に大変感謝している。

| 活 動 名 | No.27 | 団 体 名 | 下関リーディングの会 |
|---|---|---|---|
| **朗読劇とワークショップで交流しよう** | | 地　　域 | 山口県下関市 |
| | | 代 表 者 | 和田喜夫・江原千花 |
| | | 支援金額 | ２５万円 |

活動概要

演劇を用いた地域の交流、文化・芸術振興を目的に 2016 年から活動している非営利団体です。代表 2 名は、ともに下関市出身でプロとして演劇に携わっており、国内外で長年活動してきた演出家の和田喜夫と、日本各地で女優・ダンサーとしても幅広く活動する 23 歳の江原千花。地域の誰もが参加できる会として、和気あいあいと活動しています。

〇7 月 13 日(金) 10:10～11:00「幼児のための劇と体験交流会」下関 暁の星幼稚園 2 階ホールにて開催。
リーディング（朗読劇）公演 2 作品「もこ もこ もこ（原作：谷川俊太郎）」「お鍋とおやかんとフライパンのけんか」を上演、その後、園児を対象に劇の役をまねたごっこ遊びで表現体験をする交流会を開催。また隣室では、体験に参加が難しい子どもたちのために読み聞かせコーナーも併設。――参加者 園児 91 名・保育士 5 名・弊会会員 10 名

〇8 月 5 日(日) 10:30～11:30「おしばい de 本を観よう！」下関市立彦島図書館 2 階視聴覚室にて開催。
第 1 部では山口県の童話から実際の岩国市での戦争体験が童話として描かれた作品を朗読、第 2 部では人気童話「いぬうえくんがやってきた」「ルイージといじわるなへいたいさん」をステージド・リーディング（衣装や道具をつけ、動きながら演じる形式）にて上演。――参加者 地域の老若男女 24 名・弊会会員 10 名

〇10 月 3 日(水) 9:50～12:40「演劇を用いた表現ワークショップ」下関市立豊北中学校多目的スペースにて開催。
会員による「町のお姫さま」上演と、学生さん向けシアターゲーム（表現レッスン）、生徒さんの同作品発表を行った。同じ内容を各学年、1 コマ 50 分ずつ開催。――参加者 全校生徒 123 名・教師 6 名・地域の方 5 名・弊会会員 7 名

講師による説明のあと、まずは中庭で準備体操。ワークショップでは表現することの面白さを体験・発見。最後は生徒さんによる発表！

◆実施に伴う効果

幼稚園では、年少～年長と幅広い年齢が対象だったが、15分間の朗読劇を喜んで集中して観ていた。また体験交流会では、普段一緒に行動しないお友達と一緒に遊ぶことを体験して喜んだり緊張したりしていた。会員をはじめ初めて会う地域の人と園内で交流し、別れ際にはすこし仲良くなり、園児と会員が笑顔で手を振っていた。コミュケーションの基礎となる部分を楽しみながら体験する機会を創出できた。市内大学の演劇部学生もサポーターとして参加し、演劇を通じた社会貢献活動へ参加するきっかけとなった。図書館公演へも同大学演劇部学生が参加し、地域コミュニティの中での活動体験ができた。初めて演劇を観る方の来場が多く、演劇や舞台芸術に縁のなかった方が演劇に興味をもつきっかけとなっている。（今後の同様イベント参加希望率99%…来場者アンケート集計より）中学校では、これまで表現することに抵抗があった生徒も、表現することの楽しさに触れることが出来た。また言葉を用いたコミュニケーションのために、発語するときの意識や、相手との言葉のやりとりの中に身体表現を加えることなど、日常に役立つ表現手段を学べた。

◆苦労した点

幼稚園・中学校共に、日程の調整。特に中学校は4月で担当の先生が転任されたことも影響し、一旦決めたことを再度検討することとなった。また、幼稚園では年齢によって反応が異なり、年齢層に合わせた対応ができず苦労した。

中学校では先生方が求める開催内容と、こちらがお勧めしたい内容に大きく開きがあり、何度も話し合いながら内容を打ち合わせ、内容決定までに時間がかかった。最終的にプロ俳優によるリーディング公演と、表現ワークショップ、そして生徒さんの発表とした。授業時間を使うということで制限も多く、初めて演劇や表現活動体験をする生徒さんたちが、どのように反応するのか等予測することが難しく、事前に一般の方々を対象として同内容のワークショップを開催するなどして、直前まで調査・研究した。図書館公演では会員の稽古日調整、稽古場の確保。参加会員が日祝日の夕方以降しか稽古できない方がたまたま集まってしまい、稽古場として普段使用している施設が使えず（日祝日は17時閉館）、資金面を含め苦労した。

◆今後の課題・発展の方向性

これまで 3 年間で地域と連携して築いてきた活動を継続しつつ、更に幅広い層と繋がって活動を発展させたい。今回、貴財団からの支援をいただいた活動ではないが、11 月に「下関ワークショップまつり」を開催した際、障がい者の参加が複数名あり、演劇や表現活動が障がいを持つ方とそうでない方のコミュニケーションに大きな助けとなる事を実感できた。また、その際に他の障がい者団体との連携もできたので、今後、障がいの有無に関わらず参加できるイベントを企画していく。演劇そのものが持つ魅力を、より身近に提供し、幼少期から演劇や舞台芸術に触れられる環境づくりへの貢献。中学生向けのワークショップで、学生たちの反応が良く、1 回ではなく、複数回継続することでより日常の言語コミュニケーションに変化が期待できると思えたので、継続した複数回のワークショップができるよう学校と交渉をしていきたい。

演劇を通じた地域の活性化、青少年の健全育成には様々なアプローチが考えられるし、試行錯誤を重ねながら、丁寧に活動を発展させていく。また団体として活動資金を得ることのできる収益活動を模索し、外部資金に頼らない運営にシフトしていくことが課題。

◆活動を終えての感想・意見等

団体設立から 3 年目となり、活動に対して一定の評価を得られるようになった。学校や幼稚園でのワークショップを始め、今年度はワークショップを様々な方に向けて行ったことで、ワークショップの意義を感じた 1 年となった。今、イベントとしても、参加型の物が求められており、気軽にリーディングや朗読体験ができるワークショップの開催など、需要があると感じた。

学校など教育機関で、実演家が行う表現のワークショップは文部科学省でも推奨されてはいるが、実際に行うためには、授業時間・場所の他、開催費用・準備のための人員の確保が学校では困難であり、今回、貴財団から助成を受けたことで弊会が費用・準備面を全面的に行うことが可能となり、開催できた。今後も、多くの企業や団体が支援することで、青少年の育成環境をより良いものにできるのではないかと感じた。また、これまでボランティアで活動に参加してくれていた会員へも、助成金のおかげで交通費を支給できることになり、活動への参加者が増えた。弊会の活動エリアは市内とは言え広域で、交通費自己負担のボランティア参加となると、参加を迷う会員も多い。殊に学生などは稽古への参加交通費も大きな負担となる為、これまで参加を見送っていた会員も、今年度から参加してくれるようになった。改めて充分な活動資金がある事の大切さを感じた。

| 活 動 名 | No. 28 | 団 体 名 | 竹林ボランティア俵山 |
|---|---|---|---|
| 小学生の竹林体験学習サポート活動 | | 地　　域 | 山口県北部・長門市 |
| | | 代 表 者 | 会長　　久保田　浩 |
| | | 支援金額 | １５万円 |

活動概要

竹林ボランティア俵山は、放置竹林をタケノコ生産竹林に整備する活動を行いながら、地元の小学校に春のタケノコ掘りと秋の竹林体験学習を実施している。今年度は、マツダ財団の助成を受けて竹林内での体験学習の他、小学生が参加できる竹を使ったイベント活動（サイエンスフェスティバル）を実施した。下記 1～３の活動は、いずれも梅光学院大学の学生２０名がサポートとして参加。

**１．春のタケノコ掘り体験活動　（平成３０年４月２６日木曜日　10:00～12:00）**

長門市立向陽小学校３年生１５名、長門市立俵山小学校３・４年生１０名、計２５名でタケノコ掘り体験活動を実施。最初に梅光学院大学の学生が竹に関するクイズを行い、竹の基礎知識の学習を行った後、学生のサポートでタケノコの掘り取り活動を行った。

**２．長門サイエンスフェスティバルで竹細工教室を実施（平成３０年９月２９日　10:00～15:30）**

長門サイエンスフェスティバル実行委員会事務局が毎年行っているイベントに参加して、小学生を対象にした竹細工教室を実施した。３ブース出展し、①竹の伝声管、②竹の空気砲、③竹のパンフルートづくりを行った。ボランティアが竹資材の準備を行い、梅光学院大学の学生が作成指導を行った。（参加者約２５０名）

**３．秋の竹林体験学習（平成３０年１１月１５日木曜日　10:00～12:30）**

春のタケノコ掘り活動を行った２小学校の児童に、竹林内での体験学習を行った。竹の伐採、竹の食器作り、竹のバームクーヘン作りを行った。サポートは梅光学院大学の学生。大学生が野外料理を行い、児童の作った竹の食器を使って昼食を竹林内で食べた。（参加者は１と同じ）

**４．正月用の門松を俵山小学校の児童と制作した（平成３０年１２月２２日土曜日　11:30～12:10）**

俵山小学校４年生の児童６人とボランティア会員が協力して小学校の玄関に設置した。

H30 年 4 月 26 日　タケノコ掘り体験学習

H30 年 11 月 15 日　竹林体験学習

H30 年 12 月 22 日　俵山小学校門松づくり

H30 年 9 月 29 日　サイエンスフェスティバル

◆実施に伴う効果

小学生を対象にした竹林体験学習では、下記の竹に関する知識を学んだ。

① 地元にある主な竹として、モウソウチク・マダケ・ハチク・メダケを学んだ。
② タケノコ掘りで掘り取った筍が、モウソウチクであることを学んだ。
③ 竹は、地下系を通じて増えていること、タケノコが竹になることを学んだ。
④ タケノコは、１日２m程度伸びて、１ヶ月で竹になることを学んだ。
⑤ 竹は、現在使われることは少ないが、以前は生活に欠かせない資材であることを学んだ。
⑥ タケノコが地面の中から出て、採取するために鍬で掘り採ることを学んだ。
⑦ 竹を伐採して、竹の中が空洞であることを確認し、竹の空洞を使って器を作った。
⑧ 竹を加工して、おもちゃ・火吹き竹・門松などを作り竹の用途について学んだ
⑨ 竹林内を散策して鹿の糞や猪の掘り返しを見て、鹿や猪などの野生動物が身近に生息していることを学んだ。

◆苦労した点

竹林体験学習は、ボランティア会員が竹林管理と竹林体験学習に必要な竹材の準備などを行い、竹林体験学習の指導計画の作成やサポート支援は、下関市にある梅光学院大学こども学部の田中ゼミの学生と連携して実施している。苦労した点は以下のとおり。

① 竹林管理は年間を通じて実施している。タケノコ林の管理は、１年生から５年生までの竹を適度に残しながら、６年生以上の竹をすべて伐採除去する必要があるが、管理不足の状態にある。
② 獣害対策として２月から４月までタケノコを守るために電気柵を設置しているが、年間を通じて獣害が発生しており、対応に苦慮している。
③ 年間４回程度の施肥と草刈り・伐竹作業を実施しているが、竹の本数調整伐が遅れ気味である。
④ 子供の各種体験用に、ロケットストーブ・炭窯・ピザ釜・囲炉裏などの設置を行い、メンテナンスを行っているが、十分ではない。
⑤ 子供が安全に活動できるように、子供用ヘルメットや子供用軍手を準備し、隣接の施設からホースで水を引いて手洗いできるようにしている。
⑥ 体験学習は、ボランティアでは十分な活動が出来ないことから、梅光学院大学の学生と連携し、学校との体験学習実施の連絡調整は学生と一緒に行っている。食材を使った活動では、検体の確保など新たな対応が必要となり、事前準備の必要性を感じた。

◆今後の課題・発展の方向性

向陽小学校と俵山小学校は児童数が少なく、合同で体験学習を実施することは、新たな仲間づくりを行う上で貴重な体験となっている。体験学習の実施では、各学校の校長先生や教頭先生が参加され、現地の活動を確認して高い評価を受けている。

特に、竹林ボランティア俵山が行う活動は、梅光学院大学田中ゼミの学生が、学習指導計画を各学校の担任と事前協議して準備を行い、２０名程度の学生が現地サポートを行っているので、安心して体験活動が出来るようになっている。また、大学生と一緒に活動することが少ない地域なので、参加した児童は活動を新鮮に感じているようだ。

春のタケノコ堀り体験活動で、竹に関する基礎知識を学びながらタケノコ掘りを行い、秋に竹林体験活動を行うことを約束して児童と大学生が別れることによって、秋の竹林体験活動の再会で盛り上がって良い効果を出しているようだ。

竹林体験活動を地域の小学校に広げることを検討したが、回数を増やすことが困難であることから、体験学習は現在の２校で継続し、サイエンスフェスティバルで市内の小学生や先生が集まる場所で活動紹介を行うとともに、竹材を使った体験工作を提供していきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

春のタケノコ掘り体験活動では、タケノコの発生量が少なかったので、児童に十分なタケノコが提供できるか心配したが、一人３個程度のタケノコを収穫させることができて安心した。

しかし、タケノコを掘り尽くしたので、30 年度の親竹を残すことができなかったのが問題となった。来年度は、親竹を確保するために堀取らないタケノコを確実に残すようにしたい。

小学校から、来年度も体験学習を実施するように依頼を受けているが、野外活動の実施は、学校の責任者である校長先生の意向が大きいので、学校側の許可が取れるように、学習効果や安全対策などを確保するため、ボランティアの竹林管理と梅光学院大学の学生による学習指導サポートの現体制を維持しながら、体験学習を継続していきたいと考えている。

| 活 動 名 | No.29 | 団 体 名 | 創作風鎮神楽会 |
|---|---|---|---|
| **神楽による青少年健全育成** | | 活動拠点 | 山口県防府市 |
| | | 代 表 者 | 古谷忠隆 |
| | | 支援金額 | 35 万円 |

活動概要

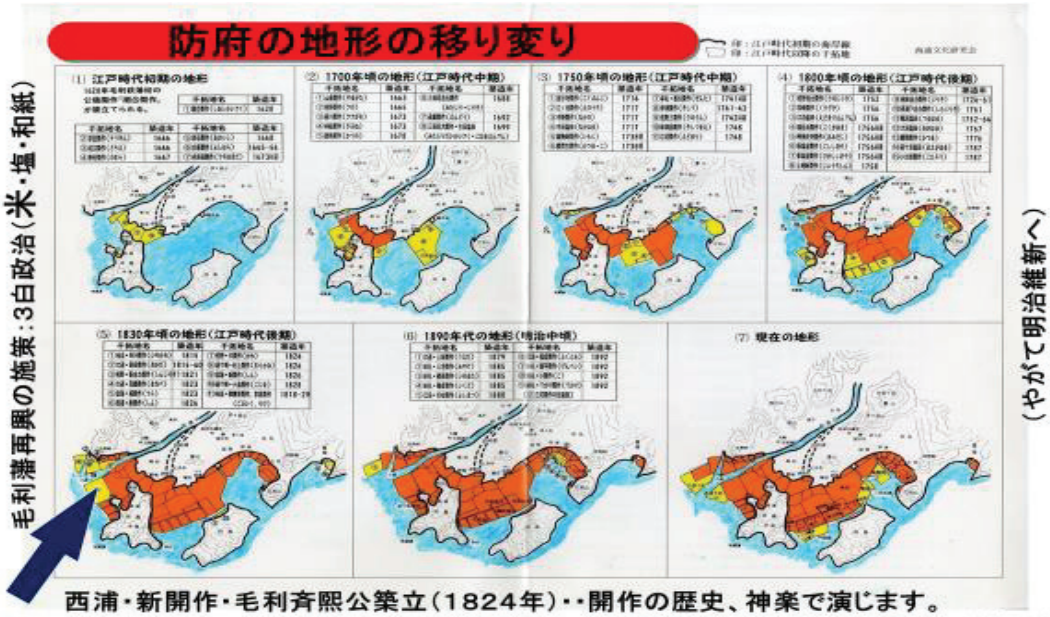
１６００年、関ヶ原の戦いに敗れた毛利藩は、三白政策（米・塩・和紙）を打ち出し、環境変化に順応しながら、幕末動乱を乗り越え、明治維新を成し遂げた。史実に基づいた神楽を創作し、困難に出会っても屈せずに、夢を持って未来を生きることの大切さを伝えていく。青少年健全育成の対象校として、山口県防府市立西浦小学校（生徒数１３２人）を選んだ。

年間計画に基づき、神楽の創作活動を進め、第２作目、演目「毛利重就公と塩田」の完成を年末とし、学校側と神楽公演日の打ち合わせを行い、１１月１８日を公演行った。

公演日までの神楽創作のロードマップを作成し、月ごとに地域での活動を行ってきた。神楽公演は、公民館や地域の自治会、社会福祉協議会との舞台公演を含め、１０回行った（練習は、月２回）。

11/25 ほうふ・幸せます・まち博、デザインプラザほうふにての公演風景

11/19 西浦小・体育館での公演風景




参考資料－2

◆実施に伴う効果

西浦小学校における神楽公演は２回目である。そのため、地域の歴史について、児童も興味を持ってきた。学校の課外授業として、児童が自主的に、「毛利重就（しげたか）公と塩田）に関連してのビデオ取材を、重就公創建の和立海神社で実施した。その児童の取材状況を、KRYテレビ局が本番取材し、「熱血テレビ」番組で、山口県下に放映された（３月１日、４日）。

先人たちが築いたふるさとには、「受け継いで、いかなくてもよいもの」と「受け継いで、いかなければならないもの」とが存在する。このたびのマツダ財団支援活動で、受け継いでいかなかればならないものが、このように後世（小学生）に受け継がれていくことは、きわめて大きな効果で、地域再生につながる。

◆苦労した点

①指導者不足

初めての石見系神楽創作のため指導者が不足。当初から指導いただいた神楽の先生が、一身上の都合で、途中で指導をやめられた。益田市の神楽社中から新たに指導者を招き、今日まで、神楽の創作を続けてきた。神楽に取組み、約２年間が経過した。幸い、活動に熱心な会員が成長し、後継者が社中から育ってきた。現在、この後継者が神楽指導の先生を補助しており、第二の指導者が芽生え始めた。未来は明るい。

②会員勧誘

里神楽に関し、当地区では全く伝統もなく知名度がないため、会員を勧誘しても、「神楽は知らないから・・」、「できないから・・・・」と断られるケースが多かった。

しかし、一度に多人数ではなく、１人が１人を紹介というように、口コミ手法による勧誘に努めた。

◆今後の課題・発展の方向性

史実や文化財に基づいた下記の神楽を創作し、青少年健全育成に取組んでいく。

予定している演目　：

① 大内義興の初陣
② 松崎天神（天神絵巻を参考に）
③ 重源上人と東寺創建

◆活動を終えての感想・意見等

① 地元企業・マツダ防府工場の協力に厚くお礼申し上げます。１１月２５日（日）に開催された防府市行事「ほうふ・幸せます・まち博」の神楽公演にあたり、ビデオや写真など撮っていただいた。
② 国際化の推進により、小学校低学年から、英語教育が実施される。これに伴い、創作神楽の物語や口上の英訳を試みた。（担当は、市内中学の英語の先生と市内の AET の先生にお願いした。すでにその原稿ができている。さらに精度を上げ完成させて、小学校に配布したい。
③ マツダ財団のご支援により、青少年健全育成の活動の「きっかけ作り」ができました。今後も、「このきっかけ」を大切に、後継者育成を行い、大いに活動を継続していきます。

そして、その全ての活動記録は、「郷土史」として作成し、現在の郷土史（４冊）に加え、防府市立図書館などに永久保存予定です。

| 活 動 名 | No.30 | 団 体 名 | 福山動作法訓練会 |
|---|---|---|---|
| 療育を通して地域の障害児福祉を耕していく一つの試み（重症心身障害児を対象とした宿泊型の動作法訓練会の実施） | | 地　　域 | 広島県福山市 |
| | | 代 表 者 | 三浦有美 |
| | | 支援金額 | 20 万円 |

活動概要

本事業は主に、重症心身障害児と、その家族を対象に、臨床動作法という治療教育を、短期集中的に実施したものです。重症心身障害児者のリハビリにおいては、その障害の特性上、骨折・脱臼等の事故が起きやすい為、講師には学識者と学会有資格者を招聘して、専門家の指導の下、安全に注意しながら動作法の訓練を実施致しました。又、保護者のケアとしては別途、親の会を設けて、訓練会場とは別会場にて、臨床心理士の講師の元で、親のみで行いました。

日時：2018 年 10 月 20-21 日の 2 日間

会場：福山すこやかセンター内

内容：動作法によって重症心身障害児の心身の機能の改善を図る。具体的には、腕上げ・肩上げ・背反らし・膝立ち・躯幹捻り・縦軸の保持など、各児の身体特徴を鑑みながら訓練を組み立てた。
初日の午前中のみ、訓練者を対象とした実践研修。午後から身障児とご家族を迎えて、動作法訓練会を開始。2 日目は午前から、同時並行で親の会を別会場で実施。

参加者：延べ人数は、約 40 名×2 日間で、約 80 名
重症心身障害児とその家族（9 家族）、広島大学教員とそのゼミ生、託児ボランティアとして福山市立大学の学生、訓練者として、福祉事業所の専門職、特別支援学校の教員、子ども家庭センターの職員、くらしき作陽大学の橋本正已ゼミの学部生など

事前の研修会（指導者を対象とした）

膝立ちの練習中

腕上げ課題の最中

親の会で動作課題を体験中

◆実施に伴う効果

- 福山市の重度心身障害児に、学会等でその治療教育の効果が実証されている、臨床動作法を用いて、集中的に2日間かけて動作法の訓練を行う事によって、児童にはより密度の濃い治療教育を提供して、保護者には「親の会」を企画して、親同士の横の繋がりを育み、集い場を設けました。特に保護者には、介護のご負担を一身に担っておられる親御さんが、日頃の思いを率直に語って頂くことによって、同じ境遇の者同士が、受容・共感・傾聴を通して、癒しや新たな気づき等がもたらされるように、臨床心理士が陪席しながら、集いを進めていきました。実際に親御さんにも動作法を直に体験して頂くことによって、筋の緊張や弛緩を味わってもらい、自分が普段どれだけ筋緊張を強いられながら介護を担っているかを理解して頂く好機となりました。また自分で自分の体が思うように操作できないもどかしさを、動作課題を通して体験して頂くことによって、普段我が子が体験しているであろう不自由さや、身体の操作の難しさも少しは分かったような気がすると、ある保護者様からご感想が述べられました。
- 講師の広大の先生のゼミ生のみではなく、他大学の動作法の先生のゼミからも学部生が参加し、将来、教員になるかもしれない学生に重症心身障害者について、直に触れながら学んで頂き、理解を深める一つの好機になったのではないかと思います。将来の人材を育てる意味でも、今後も他大学の学生との協力・協働は積極的に勧めて参りたいと思います。
- 参加者には、特別支援学校の担任の先生や、県東部子ども家庭センターの相談援助課の職員の方にもご参加を頂きました。福祉系事業所の専門職の方にもご参加いただき、スーパーバイザーの指導・監督のもと、本訓練会を通して実地に動作法の知識や手技を学びました。それを、現場に持ち帰ってもらうことで、日常の学校教育や福祉行政等においても、他の児童にも動作法の知見が還元されて、利益が及んでいくことが期待されます。

◆苦労した点

- 何といっても資金の獲得が一番の苦労した点でした。
- 日々の療育の業務と並行して、本事業の準備を一年間かけて細々と進めて参りました。
  会場探しから実地の確認、保険の準備、講師の招聘、事業要項の作成やボランティアを含む参加者の募集、宿の手配等々、細々したことが沢山あり過ぎました。
  今、事業が終わっても、報告書の作成や会計の整理など、未だ解放されていませんが、その一方で、充実感（達成感）は真に大きなものを感じております。

◆今後の課題・発展の方向性

療育の内容を吟味していくことが課題です。親の会の内容や時間設定、集団療法の内容や実施時間、トレーナー研修の質と量の吟味、他機関との連携等です。特に、動作法の研修の機会として（他機関の職員様に）利用して頂く為には、どういった配慮や工夫が必要かを、今後も考えていきたいです。あとは、会全体で仕事を共有して（保護者様と仕事を分担しながら）、会員に作業を割り振っていくことです。特に助成金の申請は大変な仕事なので、事務作業を含めて諸所の仕事を分担していかないと、継続的に事業を催行できないのでは、と思います。

◆活動を終えての感想・意見等

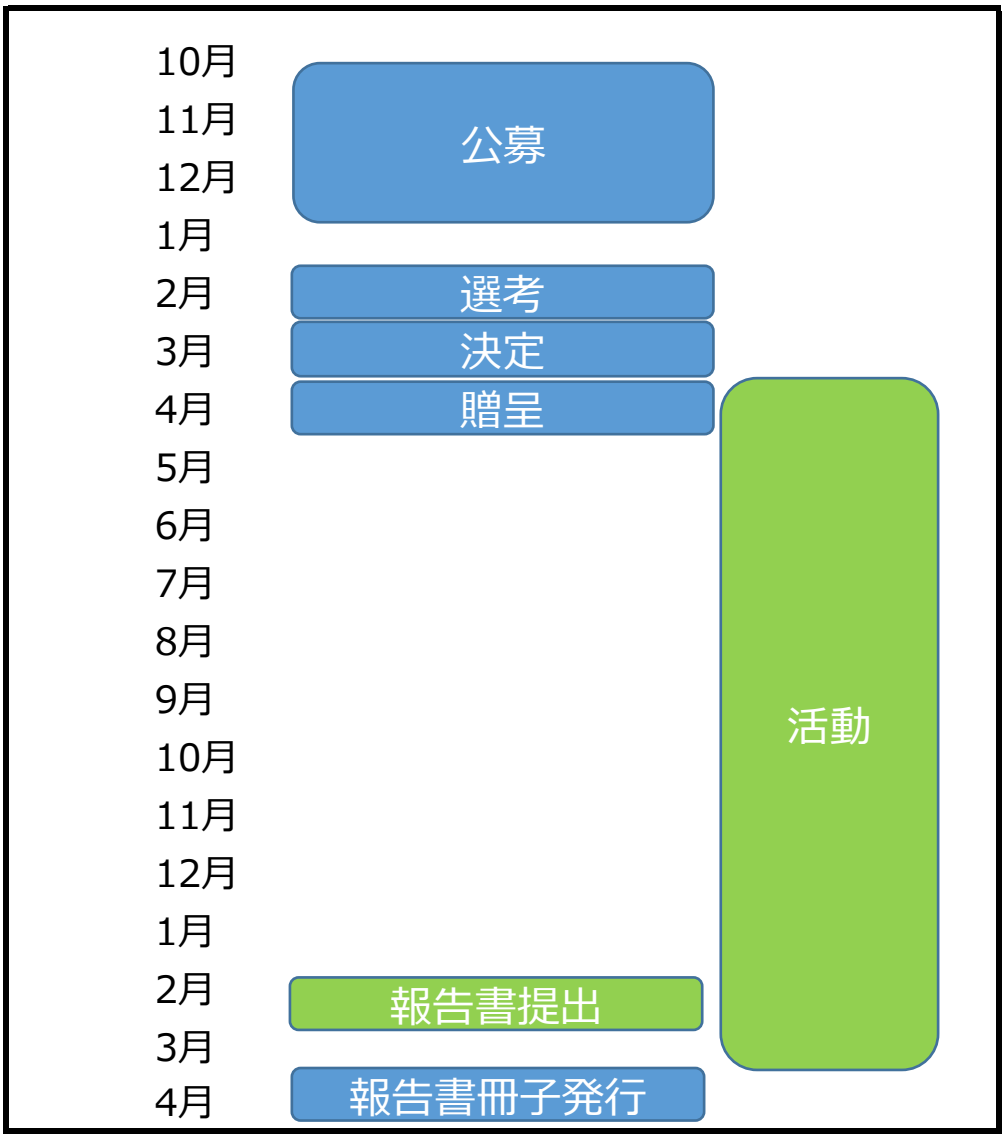
- 福山動作法訓練会を 20 年余りにわたって支えてくださった S 先生が先年、東京に引っ越されて、それ以来、再会する機会がございませんでしたが、今回、東京から S 先生を講師として招聘することが出来ました。これは予算の裏付けがないと到底できないことでした。その点で、マツダ財団様からのご支援で、講師の招聘が初めて可能となりました。
- 3 年目のデイキャンプを事故なく無事に終えることができました。今年は集団療法や、未成年の主張など、取りやめた活動もございましたが、新たな動きとしては、他大学から動作法の学生が初めて参加して下さり、また託児も福山市立大学のボランティア部の協力を得て、実施することが出来ました。講師も例年の 4 人体制から 5 人体制に増やせて、手厚い療育が出来ました。広大の学生も初めて福山に宿泊して貰いました。学生は皆、宿泊費の抑制の為に、大変兼価な宿を探して下さいました。様々に方の、種々の思いが詰まって、この事業は成り立っていると実感しております。
- 講師を含め、全参加者の夫々の予定や、予算的な事も含めると中々、全員が宿泊するという形態は難しものでしたが、いつかは実現してみたいと、切に望んでおります。

# 第34回（2018年度）マツダ財団市民活動支援贈呈式

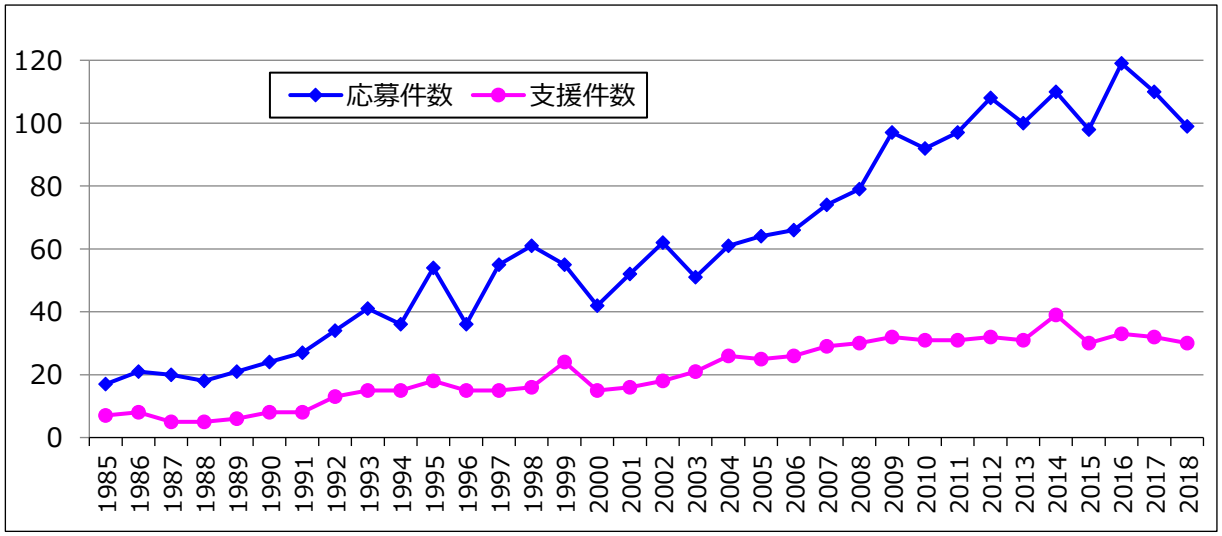
2018年4月19日（木）広島での贈呈式（マツダ㈱本社に於いて）

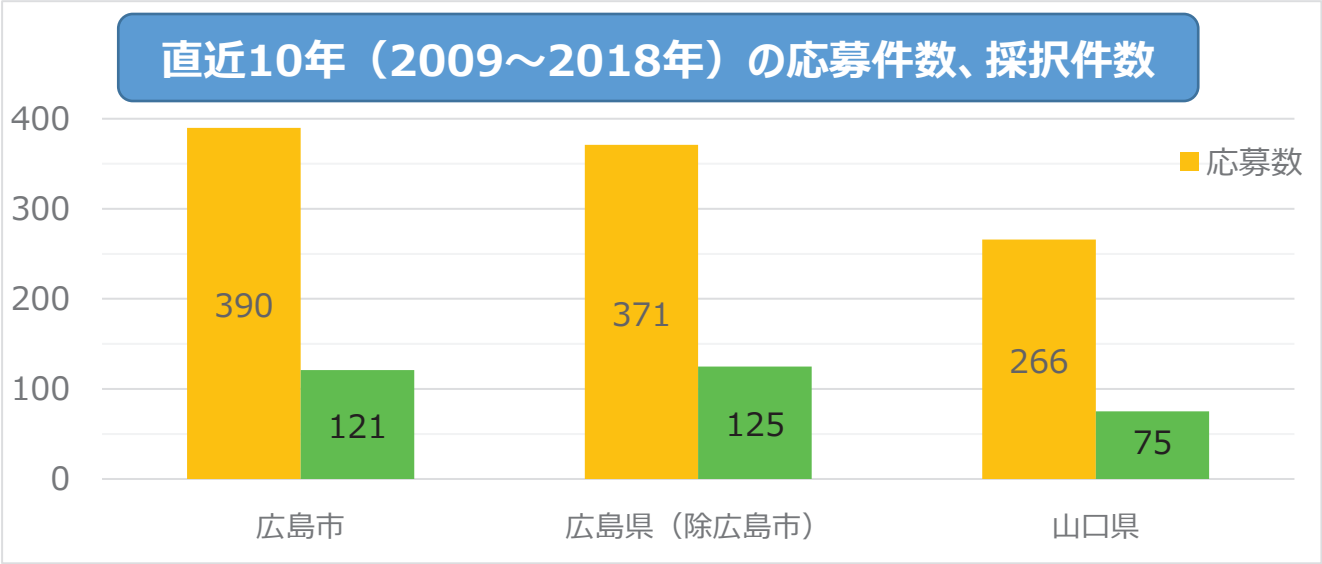
2018年4月24日（火）山口での贈呈式（マツダ㈱防府工場に於いて）

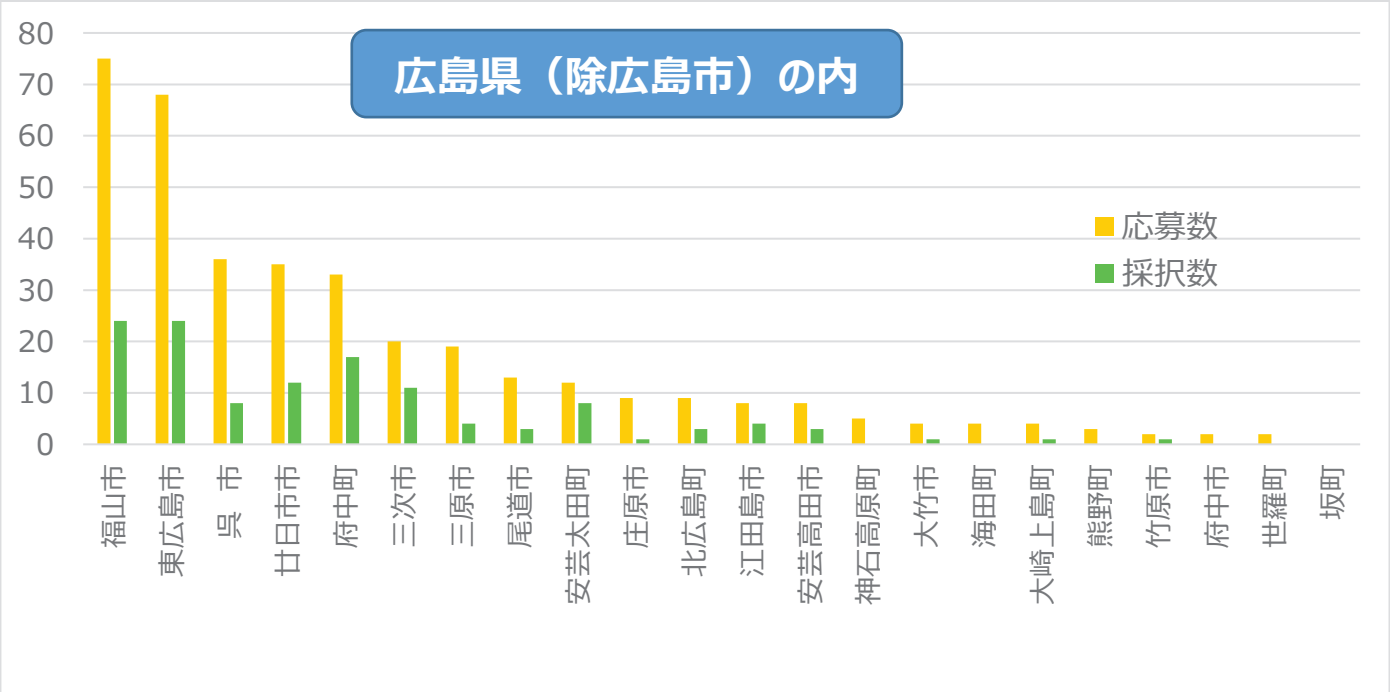
## ❊　公募～報告書冊子発行までの流れ

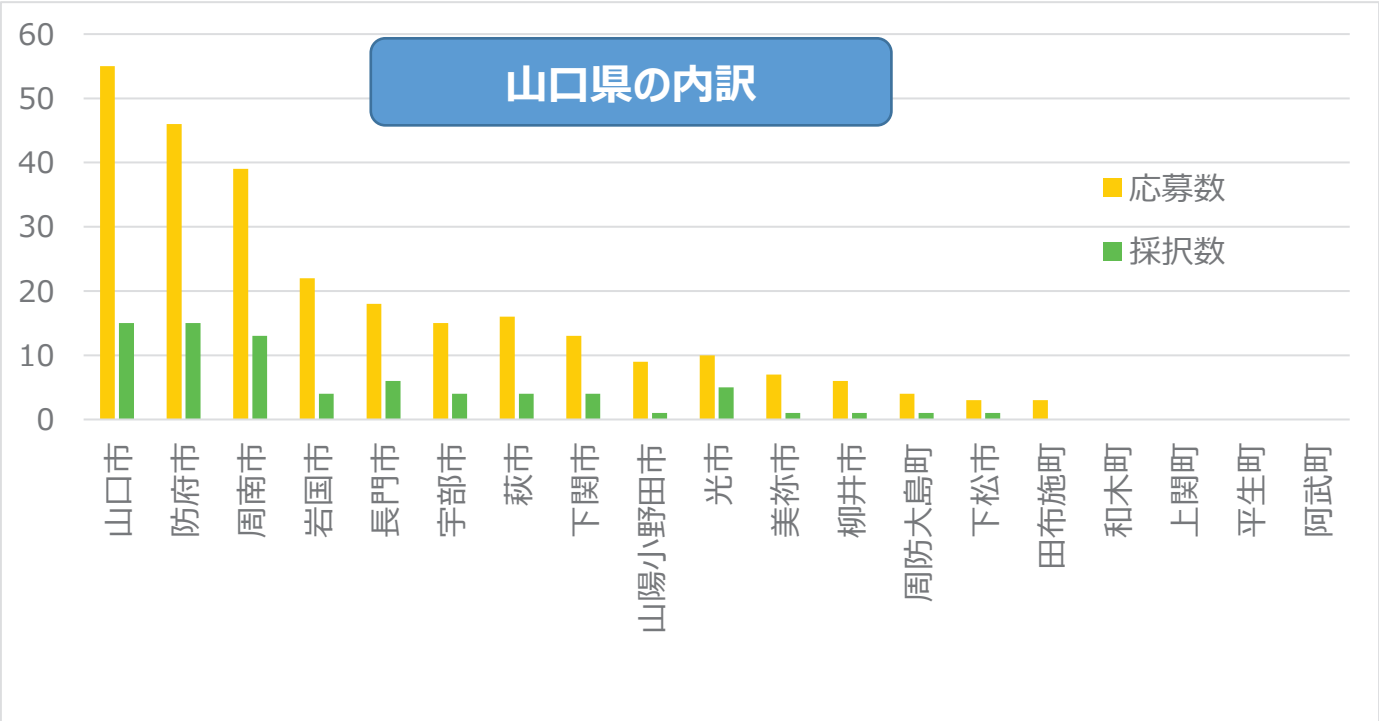



## ❊　応募･採択件数の推移（第1回～第34回2018年）




直近10年（2009～2018年）の応募件数、採択件数
400
300
200
100
0
390
121
371
125
266
75
応募数
広島市
広島県（除広島市）
山口県


広島県（除広島市）の内
80
70
60
50
40
30
20
10
0
応募数
採択数
福山市
東広島市
呉　市
廿日市市
府中町
三次市
三原市
尾道市
安芸太田町
庄原市
北広島町
江田島市
安芸高田市
神石高原町
大竹市
海田町
大崎上島町
熊野町
竹原市
府中市
世羅町
坂町


山口県の内訳
60
50
40
30
20
10
0
応募数
採択数
山口市
防府市
周南市
岩国市
長門市
宇部市
萩市
下関市
山陽小野田市
光市
美祢市
柳井市
周防大島町
下松市
田布施町
和木町
上関町
平生町
阿武町